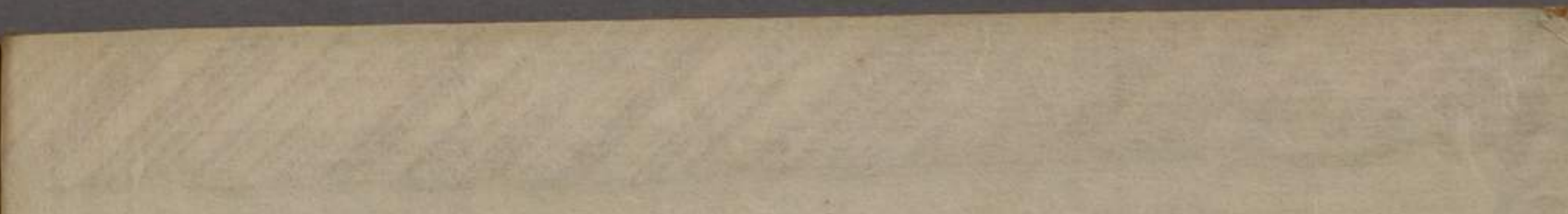


Faint vertical text on the left page, likely bleed-through from the reverse side. The characters are mostly illegible due to fading.



Vertical text on the right side of the left page, possibly a title or a specific section header.

Vertical text on the right side of the left page, continuing from the previous section.



41- 7913



彼理日本紀行緒言卷之二

頼賜壽人金刺光壽 譯



第五節

日本ト西洋ノ邦國ト交通セシ経歴

「ヘルゲナント、ノンデス、セント」氏ハ「セルウェント」
氏其功績ヲ称賛シタルヲ以テ其芳名ヲ萬世不
朽ニ傳ヘタレト又不幸ニシテ「サクスビー」ルト
イフ詩家ノ句中ニ「ビント」氏ハ虚言家ト作リシ
故其芳名ヲ汚シケリ「マルコボロ」氏ノ如キモ具



遊歴中自ラ親ク目撃セシ奇事珍説ヲ述テ當時
ノ人ニ信セラレス然レモ「ボロ氏」々説ハ後日ニ
至リ其虚説ナラサル更跡甚ク多シ今之ヲ熟考
スルニ「ボロ氏」カ親ク目撃シタル事跡ニ尔後其
社中ノ説ヲ加ヘシナルヘシ
「ピント」氏ハ一千五百年代ノ人ニテ葡萄牙国ノ
邦土發明家ノ都督ニ命セラレタル好人物ナリ
當時葡萄牙国ハ西洋ノ一強国ナレハ二百年間
モ大西洋ヲ航海シ幾内亞公額ノ海濱「カール」
「ウエルツ」「マデ」^イ「ラ」ト戦テ大ニ之ニ勝テ印度ノ海

岸ニ殖民シテ支那地ニ穩脚地ヲ設ケ又其富有
ナル一地ヲ撰ヒ「ゴ」^ア「ト」^イフ主府ヲ開キ之ヲ印
度ノ羅馬ト称シタリ夫ヨリ又澳門ヲ掠畧シテ
之ヲ葡萄牙ノ管下トセリ是レ歐洲海軍ノ兵威
ヲ以テ東海ノ地ヲ領シタル濫觴トス是ニ於テ
北東海ノ地ニ亞細亞帝領ノ基礎ヲ興シタル「ア
ルビキエ」^エ「ルキエ」^エ氏ノ如キ人物ヲ選舉セント百
方之ヲ求メタレモ同氏ニ類セシ人ヲ得ス然ル
ニ今方ニ隆盛ナル時世ナレハ一名ノ水夫ニ膽
畧アル俊傑アリ勇氣アリテ又能ク高志ノ更情

ヲ辨シ今日之ヲ陸上ニ使役スレハ地上ノ士職
ヲ勤ルニ足リ明日之ヲ海軍ニ轉移スレハ水上
ノ職掌ヲ勤ルニ足ル賢ニ撥ニ臨ニ變ニ應シ神
聖ヲモ恐レサル氣象アリ加之國益ヲ起シ國域
ヲ大ニスル度ニ於テハ艱難辛苦ヲ厭ハス悦ブ
之ニ從復シ必ス成就スヘキ人物ナリ是レ他又
ニ非ス即チ「ピント」氏ニテ東海領地ノ都督ニ撰
ハレタリ
「ピント」氏自ラ日本ニ渡海シ現ニ邂逅シタル度
跡ヲ述フ是故ニ諸氏皆「ピント」氏ハ自ラ實地ニ

到リ目撃セシトイフヲ以テ大ニ信用セリ然レ
ト日本ノ史籍ヲ以テ考レハ歐洲人一年ニ兩度
渡来セシ度ヲ載ルカ故ニ年月ニ齟齬スル所ア
リ若シ一年ニ兩度渡海セシ時ニハ兩度共ニ葡
萄牙人ニシテ日本ニ始テ上陸シ交易セシハ皆
葡萄牙人ノ功トイフヘシ又實ニ兩度渡海シタ
ラハ偶然ノ復ナルヘケレト葡萄牙人タルト更
ニ疑フヘキ所ナシ然ルニ予等今之ヲ考フレハ
多クハ一度ナルヘシ日本ノ史中ニ始テ歐洲人
ノ來船セシトテテテテテテテテテテテテテテテ

寄節ヲ合スルカ如クニテ日本人始テ外国人ヲ
見シ莫ナレハ大ニ奇怪トシ「ピント」氏カ説ヲ容
レサリシトツ日本史中ニ載ル所ノ葡萄牙人未
船年月ハ一千五百四十三年天文十十月トアリ
「ピント」氏カ記ス所ハ一千五百四十五年天文十
トアレヒ尚能ク日本ノ歴史ト「ピント」氏ノ紀行
トヲ合セ考フルニ年月ノ差ノミニテ其変跡ハ
少シモ異ナルヲナシ然レハ「ピント」氏一度日本
ニ到リテ其後復葡萄牙船或ハ支那船ニ乘リ大
風ノ為ニ針路ヲ変セラレテ日本海岸ニ漂流シ

九州島内豊後ノ港内ニ碇泊セシモ知ヘカラス
此時日本人其地ニ警衛ヲ加ヘタレヒ敢テ防戦
スルニモ非ス又交通スルニモ非ス唯礼儀ヲ正
シ親愛シテ土人ト交通セシメシノミトナシ此
時日本地ニ上陸セシ葡萄牙人ノ姓名諸氏ノ説
不同アレヒ「マヘー」アス「ソ」ヘルグ「両氏ハ」アン
ト「モ」ラモタ「ア」ランシス「ゴ」セ「モ」ト「アル」トニウ
ペ「キ」シ「ラ」ト「ニ」氏トイヒ又「ア」テ「イ」シ「ネ」ット「氏」ハ
姓名ハ値聞ノ誤レルニテ「ヘル」ナン、ノ「ン」デ「ス」ビ
「シ」ト「シ」ゴ「セ」モ「ト」キ「リ」ス「ト」ワ「ル」ボ「タル」ロ「三

氏ナラントイヘリ日本ノ史中ニ「モ」ラ、シヲク
シ「キ」リスタ、モ「ト」イヘル姓ヲ載ス「フ」ライ
シ「ネ」ット「氏」之ヲ見ラ「シ」ヲクシ「ア」ヲ日本音ニテ「セ
ル」モ「ト」キ「リ」スタ「ヨ」日本音ニテ「キ」リ「ス」ト「ワ」ル「ニ
変」セ「シ」ナラントイヒシトソ当時ハ日本国ノ侯
伯具領内ニ於テハ恰モ獨立スル者ノ如クナレ
ハ豊後ノ一族某氏ノ許可ヲ得テ葡萄牙船毎率
九割ニ至リ土人ト交通シ毛布毛皮及ヒ色澤ア
ル絡布「タ」フ「エ」タ織物此外日本人ノ好メル物品ヲ
携ヘ渡リテ交易セリ此葡萄牙船ハ支那地ノ澳

門或ハ「ゴ」ア「ヨ」リ右ノ物品ヲ積ミ日本ニ赴キシ
カ其故路ニハ日本國産ノ金銀銅ヲ持テ販ルト
イヘリ日本ニハ金銀ニ多ケレバ銅ハ殊ニ多量
ナルカ故ナリ此時葡萄牙人日本ニ到リ交易セ
シノミナラス其信スル所ノ教法ノ僧徒ヲモ誘
ヒ行レトソ
葡萄牙人日本ニ到リ七年ヲ経テ一千五百四十
九年天文十年日本ノ壯年士官ニ半四郎トイフ者
アリトカ他人ヲ殺害シ其探索嚴重ニテ日本國
中ニ居ル「ア」タ「ハ」ス是ニ於テ葡萄牙ノ植民地

「マラバル」ノ海岸「ゴア」ニ渡リ羅馬教ノ教師ニ就
テ機利斯ノ教法ニ入ル半四郎素ヨリ其性聰明
ナレバ「ゴア」ニ在ラ葡萄牙ノ商客ヲ説得シ日本
ト利益アル交易ヲ行ヒ且帝國日本ニ耶蘇教法
ヲ傳ヘ「ハ」之ヲ信スル者アラント「ハ」告タリ是
ニ於テ葡萄牙人等日本ト交易ヲ行ヒ教法ヲ傳
ヘントテ急ニ一船ヲ備ヘ高岳及ヒ進物ヲ調ヘ
且耶蘇宗ノ説法師数名ヲ乘セ行シメント企夕
リ此説法師ノ内ニ「フ」ランシス、サキサウイールト
イフ者アリシカ才能學術兼テ備リ勇氣モ亦衆

人ニ傑出シケレハ憤然トシテ一心ヲ決シ専ラ
其教法ヲ廣メントス此時半四郎モ同船シテ日
本ニ向ヒ出帆セリ既ニシテ此船豊後ニ着シ交
易ヲ行ヒ教法ヲ傳ルノ手段ヲ為セシニ何ノ故
障ナリ且耶蘇ノ教法ヲモ説タルニ政府ヨリ更
ニ制止スヘキ景況モ無ク商品ハ忽チ賣レ説法
ノ聽聞人モ多カリシトソ是故ニ葡萄牙人等此
時日本國中其心ノ欲スル所自由自在ニ通行シ
テ海陸共ニ諸所歴覽シタリ初度ニ渡海シタル
説法師ハ「サキサウイール」氏及ヒ其他ノ諸民モ端

莊ニシテ仁徳ヲ備ヘ且謙遜ニシテ愛愍ノ情深
キ人物ナレハ土人尊敬シ且皈依シケリ加之説
法師等医術ニ巧ニシテ謝物ヲ受ケス愍情ヲ以
テ疾病ヲ療シ施シケルヲ以テ日本人皆説法師
ヲ尊奉シテ仁人又聖人ト稱シタリ此時説法師
等日本ノ公道ニ関係セサルヲ以テ本國政府ヨ
リ敢テ障碍ヲ受ル事ナク唯「サキサウイ」ル氏カ
指揮ヲ守リ愍愍ニ其教法ヲ傳ルヲ専務トシ大
ニ日本人ヲ愛シケリ是故ニ始テ日本ニ渡海シ
タル説法師等日本人ノ性質ヲ説クヲ聞ク時ハ

其實甚タ羨ニシテ能ク教則ヲ奉ストノミ唱ヘ
實ニ稱譽ニ過タル者ニ似タリ「サキサウイ」ル氏
言ル事アリ我レ日本人ノ性質ノ美ナル事ヲ説
キ出セハ止ムヘキ期ナシ胸裡ニ於テ愉快ヲ覺
ユト
一千五百五十年「サキサウイ」ル氏日本ヨリ支那ニ
到リ翌年瑪港ノ近地「カント」河ノ側「カン」
ト「フ」所ニテ死シタリ「サキサウイ」ル氏日本ヨ
リ出帆スル時ニ臨テ日本ニ碩学傑出ノ人物ヲ
残シ寺院ヲ建立シケレハ其教法ニ化スルモノ

数千人ニ及ヒシトソ

葡萄牙人日本ニ於テ交易ヲ行ヒ利分ヲ得ル
少カラス其日本ニ送ル所ノ商品ハ「マカラト」ゴ
「西地」ヨリ輸出セリ歐羅巴ヨリ齎シ来ル商品
ヲ鬻キ得ル所ノ利ハ九價ノ十倍ニ至ルトイフ
是故ニ「ケンヘル」氏ノイヘル如ク葡萄牙人日本
ト二十年交易セハ往昔「ソロモ」氏ノ時代「エリエ
サレム」ニテ得タル利金ヨリモ尚多クシテ「マカ
ラ」ニハ巨萬ノ金ヲ貯ルニ至ルヘシ又當時ノ人
ノイヘルハ葡萄牙人日本ノ純金ヲ得タリト「葡

萄牙人此時日本ニ在テ百事ヲ巧ニニ慶置シ恰
モ日本ノ管下ニ屬セシ者ノ如クシテ多クハ日
本人ノ耶蘇教ニ入り富豪ナル者ノ女ヲ娶リ血
縁ヲ結ビタレハ歐洲ヨリ他國ノ人来リテモ容
易ニ退散セシムル「アタハサル」ヘシ
葡萄牙人等屢長崎ニ到リ始テ水港ノ領主大村
公ノ恩命ヲ得タルハ一千五百六十六年永祿ト
ス半四郎カ殖民セシ「アタハサル」地ナリ豊
後平戸長崎ノ三地ハ葡萄牙人ノ交易スル繁栄
ノ地ナリ斯ク盛ニ交易ヲ行ヒ来リシカ俄ニ衰

微ニ屬セントハ是皆説法家等カ自ラ起ス所ニ
テ實ニ哀ムヘク歎クヘシ「サキウイール」氏カ社中
ノ如キ聰明ニシテ其職務ヲ怠ラサル人物ノミ
ナラハ日本ニテ耶蘇ヲ嚴禁スル法ハ出サハル
ヘシ然ルニ奸佞耶智深クシテ成功ノミヲ主ト
スル「トミニカニ」「アウグスチニ」「アランシス
カン」三氏ノ輩「ゴア」「マカラ」ヨリ到着シテ日本
ヲ感服セシムル事ヲハ謀ラスシテ唯利慾ノミ
ヲ營ミ「アウグスチニ」「アランシスカン」兩氏
爭論ヲ起シ又自餘ノ諸氏モ相論シケレハ「アラ

ンレスカン」氏日本ノ法律ト旧習トヲ尊奉ニ爭
論ヲ治メ以テ己ヲ利セントシ其同僚等ニ向テ
諸氏皆爭論ヲ止メ給フヘシ否ラサレハ宿志ヲ
達シ得サルノミニ非ス日本國ニ我カ教法ヲ傳
ル事アタハサル大害ヲ生セント論シケレ共衆
皆之ヲ肯セス是ニ於テ説法家某氏奸佞ナル「ヘ
ーデン」宗ノ黨ヲ廢セントテ半四郎ニ向テ議論
ヲ起シケレハ聖教ノ輩ハ賤民ニ至ル迄切齒シ
テ皆コノ恨ヲ報セント一致シケリ
右ノ如ク羅馬教ノ僧徒等爭論ヲ起シ是ヨリ遂

ニ耶蘇教ノ僧徒日本地ヲ退散スルノ一端ト為
リタルナリ然レ共唯此爭論ノミニ非ス日本ニ
在留スル商客等一千五百八九十年代文正天二
至テハ大ニ奢侈ニ長シ且甚夕吝嗇ニシテ暴戾
ナルヲ以テ土人ニ厭ハルニ至レリ其僧徒ノ
行状ハ自己ノ教戒ヲ守ラス且其職掌ヲ忘レテ
富豪ノ國人ニ扶助ヲ乞ヒ又其宗法ヲ顧ミスシ
テ屢暴行ヲ為シ實ニ平人ニ齊キ行状ナリ是故
ニ日本人等僧徒ノ頻ニ利益ノミヲ貪ルヲ推知
ニテ賤シシ且疎ニスルノ心ヲ生セリ當時日本

人ノ説ニ教師等大怒傲慢ニシテ遂ニ西教衰運
ニ陥リシト評セリ又教師等日本ノ國法風習ヲ
誇リ且日本政府ノ高官貴人ヲ輕蔑セリ右ノ如
キ景況ヲレハ一千五百九十六年慶長ニ至リ遂
ニ大ナル難事ヲ醸セシナリ
或ル日葡萄牙ノ一僧肩輿ニ乘リ他行セリ日本
國ノ高官モ登城セントテ亦肩輿ニ乘リ来レリ
日本ノ國法ニ於テ肩輿ニ乘リ途中ニテ相逢フ
時ハ肩輿ヲ止メ共ニ下テ貴人ヲ拜礼スルヲ常
礼トス然ルニ彼ノ一僧此常礼ヲ行ハス日本ノ

國法ニ背キ肩輿ノ内ニテ他ヲ顧ミ輿丁ニ命シ
テ他方ニ急キ行シヲケレハ日本ノ高官憤然ト
シテ大ニ怒リ彼ノ一僧殊更ニ謀テ我ニ無礼ヲ
行フ我今彼僧ヲ殺サスンハ置スト是ニ於テ先
此ヲ在留ノ葡萄牙人等ニ告ケ夫ヨリ此耻辱
ヲ雪ント謀リ即時ニ一書ヲ認メ葡萄牙人ノ傲
慢無礼ニシテ大失敬ヲ為タル状ヲ罵シ之ヲ當
時ノ將軍「タイコウ」ニ訴ヘタリ然ルニ「タイコウ」
ノ云ルハ我ヨリ彼ニ向ヒ礼儀ヲ行ヒ恭敬ヲ尽
シタルニ彼之ニ答ルノ好意ナク傲慢無礼ナル

モ國風ノ異ナル所アレハ我々帝國ノ礼典田式
ヲ以テ論スヘカラストテ寛典仁情ヲ以テ敢テ
答ノ給ハサリケレハ一時頗ル議論アリ斯ク寛
大ナル待遇アルニ教師等尚傲慢貪慾ニシテ自
ラ其非ヲ悟ラス是ニ由テ既ニ日本ト相結タル
懇情ニ忽チ消滅スルニ至リシナリ
右ノ如キ景況ナルヲ以テ葡萄牙人等日本ヨリ
「リスボン」ニ返ラントテ一船ヲ出セシカ海路ニ
テ和蘭人ノ為ニ掠奪セラルル此船中ノ諸客ヲ掠
奪セシ内ニ於テ日本人「モロ」氏森ノ時ノ森京意捕

ガハアラヨリ葡萄牙王ニ送ル謀及ノ各商敷通
アリ「モロ」氏ハ羅馬教ノ信者西教ノ一親友ニシ
ラ又日本ニ在留スル葡萄牙人ノ代理官ヲ勤ム
ル良友アリ「モロ」氏ハ葡萄牙人ノ為ニ
天誅ヲ許スヘカフ此各中ニ日本ノ西教家等葡
萄牙人ト盟約シ其本国ノ軍艦兵卒ヲ請ヒ且其
兵備ヲ得テ日本ノ帝位ヲ覆サント謀ル更ヲ載
ス其謀畧ノ顛末悉ク詳ニシ難シト虽日本ヲ己
カン更ヲ謀リシハ實ニ疑フヘキ所ナシ
和蘭國ハ葡萄牙國ノ讐敵ナルカ故ニ和蘭人ヨ

リ右ノ各商ヲ遲滞ナク日本ノ高官ニ出シケレ
ハ一千六百三十七年寛永十日本政府ヨリ上旨
ヲ以テ一千六百三十七年日本ニ在留スル葡萄
牙國ノ人種ハ婦人小兒ニ至ル迄一人モ残サス
悉ク日本地ヲ放逐スヘシト嚴重ニ布告アリ又
日本ノ人民日本ノ船舶國內ヨリ出ル者ハ死刑
ニ行フトイフ布告アリ加之外國ヨリ日本ニ販
着セシ者ハ死刑ニ處シ外國人ヨリ各翰ヲ托セ
ラレ持チ級リシ者モ死刑ニ處スルト嚴命アリ
此外貴賤ヲ論セズ外人ヨリ物品ヲ買フ更ヲ禁

セラレ又西教ヲ廣メシ度ヲ謀リ西教ノ名号ヲ
唱ル者モ罪科ニ行フトイフ命令アリ又西教ノ
僧徒ノ潜伏スルヲ檢出シ西教ヲ信仰スル者ヲ
許へ出ル者ハ廢黜ヲ賜フヘキ布告アリ倭日本
政府ヨリ斯ク嚴密ナル命令下リタルヲ以テ葡
萄牙人等兩黨ニ分レ其一黨ハ日本地ヲ離レテ
本國ニ皈リ又一黨ハ猶豫シテ出島ノ商館ニ止
リ此騒動ノ鎮靜スルヲ待テ再ヒ商法ヲ開シト
謀リケル然ルニ日本政府ニテ後未日本地ニ外
人ノ足跡ヲ絶テ外國ノ物品ヲ輸入スル度ヲ禁

止アリシカハ葡萄牙人モ日本地ニ於テ交易ス
ルヲアタハス西教全ク絶滅ニ及ヒシナリト
羅馬國ノ僧徒等ノイヘルハ日本ニテ西教ヲ嚴
禁シ其説法教師及ヒ日本ノ西教信者ニ苦難大
災ヲ受シシバ和蘭人等其教法ノ異ナルヲ忌
ミ誣ル所ニ出ト然レモ年月ヲ檢査スルニ葡萄
牙人ノ日本地ヲ退散セシ事ト和蘭人ノ日本ニ
到リシ年トハ稍相隔リタルヲ以テ羅馬ノ僧徒
等ノ妄言ナル事明ケシ是故ニ葡萄牙國ノ僧徒
及ヒ商客ノ日本地ヲ放逐セラレシハ他人ノ所

為ニ非ス皆自ラ其放逐ヲ招キシナリ和蘭人ハ
實ニ下編ニ示スカ如ク扼腕切齒シテ日本ト葡
萄牙トノ騷動ノ結末ヲ待テ居シカ急ニ沼リ難
クシテ漸ク和蘭人ノ日本地ニ到ル三年以前ニ
沼リシトイヘリサレハ葡萄牙人等日本地ヲ退
去セシハ自ラ其徒ニテ爭論ヲ生シタルヨリ起
シハ分明ナリ
葡萄牙人日本ニ渡リ西教ヲ傳ヘテ其信者數千
人教派ノ為ニ決心シテ其身命ヲ失ヒタル明証
ヲ擧ク得スシテ爰ニ筆ヲ闋クハ實ニ遺憾ナキ

ニ非レト古ニ奉ル所ノ外ハ西教ヲ學タル罪科
ニ由テ男女小兒殘刺ニ被害セラレ末期ニ臨テ
勇氣ヲ顯ハセシ事アルノミ

和蘭

和蘭人ノ日本國ニ交通スル度ヲ紹介シ且日本
國ト交易條約ヲ結ビシハ英吉利人ノ扶助スル
所ナリ此時羅馬法王ノ威權頗ル盛大ニシテ世
界ノ西郡ヨリ東部半球ニ及ビケレハ法王ノ許
可ヲ得アル者ハ漫リニ西東兩部ニ往來スル度
ヲ許サズ伊斯巴尼亞葡萄牙ノ兩國ノ法王ノ許

可ヲ得テ海軍ニ頗ル備リタレハ嫉妬ニテ英國
和蘭國環ノ東方ノ諸國ト交リ交易スル莫ク好
ク是是故ニ羅馬ノ法王ヨリ許可ヲ得スレテ軍
備ナキ船ニ逢フ時ハ密賣船ト稱シテ其商品ヲ
掠奪シ其船中ノ人ハ海賊又ハ密賣人ノ罪科ニ
行ヘリ

和蘭英ノ兩國ハ羅馬法王ノ地理書ヲ信セス又
其教法ヲ奉セサレハ其説ニ唱ル所ノ世界ハ法
王ノ私有トイヘルヲ變レテ寸地モ法王ノ私有
ニ非ス悉ク上天ノ物ニ皈スルトイフニ至レヒ

其説尚不正トシ之ヲ賤ンシテ夷説トス然ルニ
伊斯巴尼亞葡萄牙ハ法王ノ教法ヲ奉シ大砲彈
藥ノ功カヲ以テ人ヲ威服セシト欲スル力故ニ
英和蘭兩國ニ漫リニ船舶ヲ出スルアタハス殊
ニ南海ニ船舶ヲ出ス時ハ銃砲ヲ備ヘ五六艘ノ
船隊ニ非レハ出スルアタハサルナリ右ノ如ク
皆五六艘ノ船隊ニテ出帆ニ交易ニ利アル所ヲ
撰テ碇泊シ伊斯巴尼亞葡萄牙ノ船舶ヲ見レハ
共ニ宗敵トシ或ハ掠メ或ハ奪ヒ又葡伊兩國ノ
殖民地アルハ或ハ攻撃ニ或ハ放火ニ以テ相讐

敵トス「エスキュノリニク」^{「ボルネット」}兩氏著述ノ海
賊紀事ヲ一覽セハ蘭英ト伊葡トノ相讐敵トシ
暴戾過激ナリニ事自ラ分明ナルヘシ其宗敵ト
シ相讐ル語ニ伊葡兩國ヨリハ惡宗留得爾ト呼
ビ或ハ改宗者ト呼ビ或ハ耶宗杯ト呼ビ之十
レ共英蘭兩國ヨリハ不正羅馬宗虛説宗木像信
者宗腐骨信者宗ト呼タリ斯ク英國ノ第一世「エ
リサベツトゼー」ムズ氏第一世「チャールズ」氏ノ時代
迄ハ右ノ如ク兩黨相分レテ讐敵トセシカ第一
世「ウィルヘルム」氏ノ世ニ當テ「レ」スウエーキニテ和

議ヲ結ビ且伊葡兩國ヨリ兵威ノ強盛ナル邦國
起リ来テ太平洋海及東海ニテ交易スル事ト為リ
タルナリ
前條ニ載ル如ク英蘭ト伊葡ト兩黨ニ分レ相讐
敵トセシハ「エリサベツト」氏ノ季世ノ事ナリシカ
此時和蘭人始テ日本ニ渡ルトイヘリ偕和蘭人
一千五百九十八年^{慶長}三月六月廿四日「ジャコブ」マ
^{ニッザキ}氏ヲ船將トシ印度ノ和蘭國商社ヨリ和蘭船
五艘ヲ出セリ此水師提督カ船ノ引水官ヲ「ウイ
ルリアム、アーダム」ストイ「フアーダム」氏ハ後

スヘキ誠實アル人物ニテ「ボルネオ」トイフ碩学
家ノ著書ニ「アムステルダム」ノ傳ヲ載ス其傳文ニ「アム
ステルダム」ボルネオニ向テ予ハ英國「ケンブリッヂ」
テ「ロウエスト」ルヨリ英國里方ニテ二里又我カ其
國女王ノ繫船所「チャッタム」ヨリ一里ヲ隔タル「キ
ルリング」ハムノ産トイヒシヲ奉テ其次ニ「ボ
ルネオ」ニ「アムステルダム」ニシテ勇
氣アル航海家タル「アムステルダム」ニ賞賛セリ又其次ニ「アム
ステルダム」ニシテ力言アリ予ハ不化國^{ニシテ}交易會社ニ入り
和蘭國ノ印度ニ交易ヲ開クニ至ル^迄ハ十二年

ノ間女王陛下ノ船舶ノ船司兼引水官タリシカ
此時印度ニ於テ僅ニ天授ノ学科ニ從事シ夫ヨ
リ和蘭國ノ船隊ノ引水官ニ命セラレタリ是レ
實ニ一千五百九十八年^{慶長}十リト載ス
此行ニ於テ英國ノ引水官甚々拙クシテ長ク海
上ニ漂泊シ大ニ困耗セリ此片船中ニテ悪病流
行ニ提督ヨリ水夫マテ死スル者頗ル多シ其餘
モ大ニ難渋シテ一千五百九十九年^{慶長}四月漸
ク「マゲルラン」ノ海峡ニ達シ夕リ是レ「アム
ステルダム」ノ過失ニ非ス船將ノ愚昧ヨリ出ル所ニシ

テ「マゲルラン」ニテ冬ヲ越シ其滞在殆ト六ヶ月
ニ至リ食料缺乏シテ餓死セシ者アリ夫ヨリ六
艘ノ船隊「マゲルラン」ノ海峡ヲ發シ太平海ニ出
シカ暴風大ニ起リ船隊之カ為ニ分散シテ或ハ
沈没シ或ハ海賊ニ掠奪セラレ或ハ又食料薪水
ヲ求ニカ為孤島ニ上陸シテ兇暴ナル島人ノ伏
兵ニ襲ハレテ死スルモアリ特リア「ダムス」カ
乗タル船ノ幸シテ大難ヲ遁シ残りケレハ「ア
」ダムス」船中ニ在テ凡百ノ工夫ヲ凝シ日本ニ
到ラント決シケリ是ニ於テ「ア」ダムス」氏猪心

ヲ励マシ勇氣ヲ奮ヒ兼行ケレハ一千六百年長
年^五四月十一日始テ海上ヨリ遙ニ日本豊後ノ高
嶺ヲ見出し十二日ニ豊後ノ港内ニ碇泊セリ此
時船中ニテ其職掌ヲ勤ル者僅ニ五人ニ過スシ
テ其餘ハ悉ク病者ナリ既ニシテ「ア」ダムス」等
上陸シケレハ懇懇ニ待遇アリテ船中ニハ番兵
ヲ送り高品ヲ守ラシメ病者ハ陸地ニ於テ一家
ヲ設ケ看護セシメ又自用ノ物品ハ悉ク豊後ノ
一侯ヨリ送ラル其後此一侯ヨリ和蘭人未着ノ
旨ヲ將軍ニ奏聞アリ

上ニモ述ビ如ク葡萄牙人ハ既ニ永ク日本ニ往
来シテ長崎ニ居留地アリ和蘭人豊後ニ来着後
五六日ヲ経テ長崎ヨリ葡萄牙ノ教法家其國人
一兩名及ヒ日本ノ西教信者ヲ誘ヒ来リ和蘭ノ
船中ニ多ク商品ヲ積ミ来ルヲ見テ大ニ嫉妬ノ
心ヲ生シ和蘭人ヲ海賊ト称セリ日本人之ヲ信
シケレハ隣ムヘシ和蘭人ハ網裡ノ魚鳥ノ如ク
日夜其死ヲ待ノミ是レ葡萄牙人カ和蘭人ト其
教宗ノ異ナルヲ惡ミ且特リ日本國ト專ラ交易
セント欲シ諛セシ所ヨリ起レリ斯テ此事ヲ豊

後ノ一候ヨリ大坂ノ將軍慶長五年事ナレニ
家康公ナレシニ
建白アリケレハ忽チ大坂ヨリ「アイダムス」氏ト
和蘭人一名トヲ大坂ニ送ルヘキ旨命アリ是ニ
於テ「アイダムス」氏ハ葡萄牙ノ譯官ニ誘引セラ
レテ大坂ニ到リ將軍ニ謁見シテ悉ク其心情ヲ
陳述シ且非中ニ齎シ来ル所ノ商品ノ見本ヲ出
シテ海賊ニ非ル事ヲ証シ和蘭國ニ葡萄牙ト同
様交易免許アラン事ヲ願ヒタリ「アイダムス」氏
カ願意ニ將軍ヨリ答ル所ノ意ハ日本語ナルヲ
以テ「アイダムス」氏知ル事アタハス既ニシテ「ア

一ダムス氏獄屋ニ繋カレタレニ其待遇取テ慘
酷ナルニ非ス四十一日ヲ経テ獄屋ヲ許サレテ
リ「ア一ダムス氏ハ後日ニ知リタレニ其入獄ノ
間葡萄牙人及ヒ日本ノ救済信者等ヨリ頼ニ和
蘭人ヲ海賊トシ殺戮アラシメテ走白セシトイ
ヘリ尚葡萄牙人ヨリ和蘭人ノ海賊ナルトテ屢
陳述スルヲ以テ將軍ヨリ和蘭人我國差ニ我人
民ニ對シ一ノ暴戾ヲ為セシメテ又和蘭國ト
葡萄牙國ト合戦ニ及フヘキ理ナケレハ日本ニ
テ漫リニ和蘭人ヲ殺戮スル「アタハストテ好

意正論ヲ以テ葡萄牙人ニ布告アリ
將軍ヨリ再ヒ「アダムス氏ヲ召サレ凡百ノ尋問
アリ此時又「ア一ダムス」ニ豊後ニ碇泊スル船中
ニ到リ同行ノ者ニ面晤スル「ア」望ムヤ否ト問
ハル「ア一ダムス」氏本朝リ希望スル所ナリト答
ヘサレハ將軍ヨリ蘭船ヲ大坂ニ廻スベキ命ヲ
下シ且同行ノ蘭人悉ク無変ナル事ヲ「ア一」タム
ス氏ニ告ルノテ「蘭船」エト「大坂」近地カ名
「詳」ニタスルノ近地ニ来着シケレハ悉ク船中ノ物
品ヲ陸地ニ揚シノ將軍來船シテ一覽シ給ヘリ

カ例年ノ日限ヨリ二日遅レタルヲ以テ海上ニ
テ逢フコトアタハス平戸ニ着シケレハ上陸シテ
大坂ニ到リ「アーダム」氏ニ面会シテ高談シ夫
ヨリ將軍ニ拜謁シテ懇命ヲ受ケ遂ニ毎年和蘭
ヨリ一兩船ヲ送り交易スヘキ免許ヲ得タリ是
レ和蘭國ノ日本ト交易スル濫觴ナリ
前條ニモ云ル如ク「アーダム」氏日本ニ在テ高
位ニ昇リタルヲ以テ其自ラ日本ニ在テノ位階
ヲ譬ヘテ我毎日將軍ノ要吏ヲ勤メ俸給ヲ賜リ
我ニ從吏スル臣僕八九十人アリテ英國ノ「ロル

トシツブ」貴族ノ如シ實ニ古来此ノ如キ例ナシ是
故ニ我自ラ以為ラク上天前日ハ我ニ興フルモ
不韋ヲ以テシ今又我ニ報ナルニ大幸ヲ以テス
且我々芳名ヲ不朽ニ流サシム嗚呼實ニ喜悅ニ
堪スト
是ヨリ先「アーダム」氏日本ニ在テハ大ニ將軍
ノ寵愛ヲ得テ面目ヲ施シタレモ同氏ノ心中ニ
於テ常ニ衰慕シテ志レ能ハサル「アーダム」氏其
本国ニ在ルヤ既ニ婦ヲ迎ヘ二人ノ小兒アリテ
大ニ之ヲ愛セシカ英國ニ殘シ置テ日本ニ來リ

ケレハ日夜此妻子ノ下ノミ想像セシトイヘリ
「アーダムス」氏々日本在留紀彙ト題シタル啓ニ
其妻子ニ贈ル書簡ノ支ヲ載ス實ニ讀者ヲシテ
其愛情ニ感シ其信情ニ服シテ之カ為ニ源ク感
動セサルヲヤカラシム日本將軍「アーダムス」氏
ノ其國ニ皈ルヲ許サス若シ將軍之ヲ許ス共
毎年日本ニ往來シテ交易スル所ノ葡萄牙船ハ
警敵ナルヲ以テ此船ニ乘リ皈ルヲハ好ムヘカ
ヲケレトモ和蘭船ニ依頼セハ本國ニ皈テ妻子
親族ニ再会スルヲアルヘキヲ惜ムヘシ憐ムヘ

シ「アーダムス」氏心中ニ以テラク後日必ス神明
ノ冥助アリテ本國ニ皈ル時アラント然ルニ「ア
ーダムス」氏故郷ヲ景慕スルノ情愈々トシテ絶
ル時ナケレト自ラ戒メ自ラ慎ミ安然タル者ノ
如シ同氏又以テラク我レ自ラ本國ニ皈リ妻子
ニ再会シ得スレハ願クハ我カ在所ヲ知シメ以
テ妻子等ノ思慕ヲ慰メシメント其後一千六百
十一年^{慶長十}_{六年}至リ和蘭船渡來シテ「アーダム
ス」氏ノ本國英吉利ニテ東印度ト交易ヲ開キ「マ
ラバル」ノ海濱ニ商館ヲ立シテ聞タレト英國

ヨリ何人未テ「マ」ラバルニ在留スルヤヲ知ラサ
レト英人ト聞ケバ此人ニ托シテ我カ十三年以
来本国ヲ離レ妻子ニ別レ困難セシ情実ヲ述シ
ト心ヲ決シ二通ノ長キ書翰ヲ作り一通ハ其上
書ヲ婦ニ宛テ一通ハ其上書ヲ友ノ如ク記セシ
トナシ

未夕拜願ヲ得サル友人并ニ本国ノ諸君此答
翰ヲ幸便又急便ニ「リ」ノハウス「或」ハ「ケン」ト又
「ロ」セステルノ内「ギル」リシグハムニ居住ス
ル拙者ノ友人ニ達シ給ハシ更テ請ト答申ノ

文意ハ則チ左ノ如シ
拙者本国ヲ離ル「ト」既ニ久シク更々物々ニ
付妻子ノ更テ聞シト欲スルノ情ニ堪ヘス妻
子モ亦於此ノ安否ヲ聞シト渴望スヘクレハ
神明ノ冥助ニ由リ良友アリテ此答ヲ本国ノ
妻子ノ許ニ達シ給ハシ「ト」テ請フ是ニ由テ拙
者カ死前妻子ノ存亡ヲ聞シト欲スルノミ上
天若シ我カ念ヲ達セシメハ妻子ノ雀躍拙者
ノ満悦同「カ」之ニ過ル者アラシ

一十三年慶長十
六月廿十日日本ニ於テ書ス

榎久且後臣ウイリヤマアトダムス

此兩通ノ書翰ハ甚ク長文ニテ「アーダム」カ「テ
キセル」ヲ出立セシ以來ノ事跡ヲモ載タリ前ノ
數條ニ舉ル所ハ此書簡中ヨリ引ク所ナリ備此
各簡ハ儘ニ英國ニ達シタレトモ妻子等尚存在シ
テ「アーダム」カ書簡ヲ見シヤ又「アーダム」カ
返答ヲ得シヤハ知ヘカラス爰ニ「アーダム」カ
心情ヲ述タル一詩アリ以テ察知スヘシ其詩ニ
曰ク

子妻子ヲ見得サルヘシ又旧友故國ヲモ見得
サルヘシト

「アーダム」氏一千六百年慶長日本ニ渡リ在留
セシヨリ十九年乃至二十年ヲ經テ一千六百十
九年玩和若クハ一千六百二十年ニ至リ平戸ニ
テ死シタリ同氏カ薄命ナル事跡ヨリ日本ニ於
テ其本國ニ書ヲ送リタル傳説ヲ舉ルニ專ラ同
氏ノ日記ヲ採用セシカ今悉ク之ヲ閣キ下條ハ
日本ト和蘭ト交易ノ下ノミヲ舉ク者官ソレ之
ヲ察セヨ
和蘭人ノ日本ニ於テ商館ヲ設ケシハ其始ハ平
戸ナリシカ甚ク微々タル者ナリ此時葡萄牙ノ

高館ハ今和蘭人ノ在留スル長崎ノ出島ニ在リ
此兩國ノ人民互ニ相怨ミ相惡ミケレハ各常ニ
日本ノ高官ニ訴ヘ相害セントソ謀リケル遂ニ
一千六百三十九年寛永十ノ秋冬ニ至リ葡萄牙
人等悉ク日本ヨリ放逐セラレ其後葡萄牙人等
和蘭人ニ對シ分明ニ約定ニ背キ且其陽ヲ飾テ
陰ニ大惡事ヲ企タリ其所業交易ノ上ニ於テ利
ヲ貪ルヨリ甚シク又残忍ニシテ人命ヲ害スル
ヨリモ遙ニ甚シ即チ葡萄牙ノ教師等悉ク放逐
セラレタレ共日本人ニ法教ヲ傳ヘ其教根ヲ止

メテ抗抵セシム借此日本ノ教法信者等憐ムヘ
シ悲シムヘシ葡萄牙國ヨリ来リタル教師ニ離
レ入牢拷問ヲ命セラレ甚キハ死刑ニ行ハルノ
ト雖尚深ク之ヲ信シテ疑ハズ是ニ於テ公ケニ
謀反人ニ處セラレケレハ島原ニ割據シ將軍ノ
兵隊ニ抗抵セリ此時日本國ノ官府ヨリ葡萄牙
ノ教師ニ教法ヲ學ビタル日本人等ヲ征伐セシ
カ為和蘭人ニ援兵ヲ請タリケレハ和蘭人ニ之ヲ
承諾シ即チ日本在留和蘭國交易長官ヲ以テ將
トシ平戸ヲ獲シテ島原ニ赴キ見レハ日本人ニテ

教法ノ賊徒等島原ノ古キ街坊ニ一砦ヲ築キ尚
其海濱ニ砲礮ヲ設ケ相敵セント謀リタリ和蘭
人之ヲ見テ直ニ其船ヲ進メ街坊ノ一砦ト砲撃
シ且砲礮ト戦ヒシカニ週ヲ経テ賊徒等未タ降
服ニ至ラサレバ戦死甚タ多ク兵勢大ニ衰ヘ久
ク堪ヘ得サル状態アラハレケレハ日本官府ヨ
リ和蘭人ニ謝シテ援兵ヲ辞ス然ルニ日本官用
ノ為和蘭船中ノ大砲六門ヲ借用セント請シニ
由テ貸與ヘシトイヘリ其後賊兵砦中ニ在テ兵
糧攻ニ逢ヒ多ク餓死シ遂ニ其巢窟ヲ奪ハレケ

レハ砦中ニ残ル男女小兒ニ至ル迄悉ク誅戮セ
ラレテ子遺ナシトナシ
此時日本在留ノ和蘭人ヲ葡萄牙人ト同黨トス
ルハ正論ニ非ス和蘭人ハ全ク別種トス島原戦
争ノ片ニ方テ和蘭船ノ本地ニ向ヒシ船ノ外ニ
尚平戸ニ残リタル船アリシカ船將日本政府ヨ
リ此船モ亦平戸ニ赴クヘシト頼マレン事ヲ察
シケレハ砲ヲ揚テ平戸ヲ出帆シ暴戾ナル戦争
ニ関係セサリシトソ今ヨリ之ヲ考ルニ和蘭國
ノ船將「ゴッケベツケ」此氏其船ヲ平戸ヨリ出スニ當

テ悪名ノ和蘭國ニ飯センコトヲ恐レ且無罪ノ人ヲ
殺害スルハ正シカラサル事ナレハ後日日本トノ
交際貿易ニ妨害アラコトヲ恐レ大ニ痛心シテ
出セシナルヘシ然レハ此片實ニ和蘭船ノ島原
ニ出征セシヤ否ヤ未タ之ヲ詳ニスルコトアタハ
ス其證ニハ一十六百年代ヨリ一千八百三十三
年天保四年保ニ出板シタル「リッセル」氏カ著書ニ至ル迄
日本ノ事蹟ヲ載タル諸書ニ於テ和蘭船ノ島原
戦争ニ幫助セシ事ヲ載タル者ナシ某氏ノ説ニ
此時和蘭人日本官府ヨリ島原ニ赴キ應^援説スベ

シト托セラレ止ムコトヲ得ス之ニ應ストイヒ又
某氏ノ説ニ和蘭人ハ唯銃砲ヲ貸シ彈藥ヲ與ヘ
日本人ニ銃砲ノ用法ヲ傳授シ其後武器兵隊ヲ
和蘭船ニテ送りシノミトイヘリ然ルニ又日耳
曼人「ケン」ハ止氏ハ島原戦争後和蘭國ノ外科医
官ヲ勤メ日本ニ在留セシカ和蘭人島原ノ役ニ
日本ノ戦隊ニ入り戦ヒシコトヲ載ス又近世佛蘭
西人「ライ」シネット氏此戦争ノ事ニ於テ異説ヲ
擧ル共信スルニ足ラス其説ニ曰ク島原戦争ノ
時日本ニ於テ謀反人起リ葡萄牙派ノ耶蘇信者

ハ此謀及人ニ左祖ニ和蘭人ハ官軍ニ屬セシヲ
以テ平治ノ後モ長崎出島ニ在ル和蘭國ノ公書
類少シモ故障ナク又日本ト和蘭トノ交際モ親
クシテ罪科ヲ受サリシトイヘリ右ノ如ク諸説
各齟齬スル所アリトモ今當時ノ和蘭國ノ公書類
ヲ見ヘキ手段ナク又「フライシネツ」氏カ説モ信
シ難ケレト若シ「フライシネツ」氏カ云ル如クナ
レハ當時出島ニ在留ノ和蘭人及ヒ其後在留ノ
和蘭人等此事跡ヲ載ル「ラ洩」セシモ計ルヘカ
ラス一千八百三十三年間和蘭國ヨリ日本ニ在

勤スル書記官「レツセル」氏ナレハ同氏出島ノ公
書類ヲ開キ見テ何故ニ此「ラ洩」セシヤ又日本
ニテ何故ニ和蘭人ノミ「ラ寛典」ニ處置セシヤ知
ルベカラス
日本國ノ書籍ニ於テ「フライシネツ」氏ノ云ル如ク
和蘭人ヨリ島原役ニ應援セシ「ラ洩」セシ然レ
共日本政体ノ「ラヨリ」一揆起リ和蘭人之ニ關係
セシ「ラアリ」日本國耶蘇ノ信者等不幸ニシテ島
原ニ死セシ者ヲ埋葬シタル碑中ニ於テ官命ニ由
リ憐ムヘキ碑文アルトイヘリ其文ニ曰ク大陽

ノ地上ヲ照臨スル間ニ於テハ耶蘇教ノ法徒一
人ニテモ日本地ニ来ル事ヲ許サス且伊斯巴尼
亞王並ニ耶蘇ノ神佛此命ニ背ク時ハ直ニ其首
ヲ刎ニ嚴ニ之ヲ萬人ニ報告スベシト
此可憐ナル國民ノ斯ク残酷ナル處置ニ行ハレ
シトヲ我輩ニ知ラシマル者ハ當時日本國ニ在
留セシ老實ナル「ケン」ハル氏ナリ同氏ハ當時日
本ニ在留シテ和蘭國ノ医官タリ其手記ニ下條
ノ文ヲ載ス日本國ノ朝廷ニ於テ悉ク耶蘇派ノ
外人ヲ放逐セント欲スルノ企アレハ帝旨ヲ

奉シ應援スキ時ハ永ク日本地ニ止リ莫ニ克ク
交易ヲ行フヘケレト當時在朝ノ貴族官員等嫉
妬ノ念深ク且和蘭人ヲモ疑ヒ信セサル所アリ
然ルニ和蘭人等葡萄牙人トハ本ト大同小異ノ同
宗ナレハ之ト相與シ信ヲ尽シ義ヲ重シシテ同
ク天帝ノ門ニ入ラシ莫ク願フヘキニ却テ日本
人ヲ助ケ誠実ヲ顯ハセシヨリ遂ニ信用セラレ
ルトト為リタリト是レ予「ケン」ハル氏カ和蘭國
人ノ初テ日本國ニ信セラレシトノ談話ニ及フ
毎ニ日本人ヨリ屢聞ク所ナリ斯ク和蘭人ハ日

本人ノ勇気ヲ鼓舞シ親睦國ト爲ント欲センニ
日本人ハ却テ嫉妬ノ心ヲ抱テ狐疑ノ情ヲ含メ
ルヲ以テ暫時ニ唯自ラ謙遜シ何事モ知ス知ス
トノミ答ヘケレハ日本人ハ益嫉妬狐疑ノ情ヲ
起シ和蘭人ノ爲ス所百変悉ク信セラレサルニ
至ルト是レ日本人ニテ此変情ヲ能ク知タル者
ノ云ル所ナリ元來日本國ニ於テ切支丹宗ヲ放
逐セントラ羅馬派ト波羅士特派トヲ同答ニ處
置セントスルハ大ニ変理ニ及セシ変ナリ何ソ
正善誠実ヲ混スルノ甚シキマ葡萄牙又等賊

心慢心アツテ日本人ニ謀及テ勸メ逐ニ其身モ
放逐セラレシ時和蘭人モ嫉妬ノ心アラハ葡萄
牙人ノ餘教ヲ奉スル者ヲハ悉ク共ニ殲滅セシ
真ノ耶穌教派ヨリ見ル時ハ和蘭葡萄牙人兩國
共ニ其本旨ニ背ク者トス
和蘭人「ケンヘル」氏カ日本紀度ニ和蘭國ノ商館
是迄ハ平戸ニ在テ百変大ニ便利ヲ得敢テ束縛
セラル、^一ナク愉快ナリシカ一千六百四十一
年寛永十至リ葡萄牙人日本國內ヲ放逐セラ
レタルヲ以テ其跡ノ長崎港内ニ在ル叢脣タル

一、小島出島ヲ和蘭又ニ賜ハリ之ニ移住スヘシ
ト命セラル実ニ恰モ因徒ノ如シト記セリ和蘭
人出島ニ在テハ日本ヨリ嚴ニ番兵ヲ出シテ禁
止壓制セラル又「ケンヘル」氏ノ著書ニ和蘭人甚
夕貪慾深ク唯日本國ノ金貨ノミニ眼ヲ着ケ出
島ニ在テ禁錮セラレ且蔑視セラレ之ヲ日シ
日曜日及セ其他ノ祭日ニモ上帝ヲ拜スル「ナ
ク又「ケ」ナルハ經テ誦誦セス如之日本人ノ眼最
ニテハ幾利斯ノ名目ヲモ唱ヘ得ス唯日本人ノ
傲慢無礼ニ堪ヘ忍テテ以テ主意トス何人カ能

ク之ニ堪ル「ナ」ヲ得ント載タリ方今ニ至テモ日
本ニ在番スル和蘭人ハ右ノ如ク尚禁錮蔑視セ
ラル、トイヘリ○出島ハ天然固有ノ地ニ非ス
嘗テ人カヲ以テ之ヲ築キタル地ナレハ其形扇
面ノ如キ叢島タル小島ナリ其縦ノ最モ長キ地
位ニテ大約六百「ト」具横ノ最モ廣キ地位ニ
テ二百四十「ト」ニ過ストナン出島ヨリ長崎
ノ街坊ニ出入スルニハ一ノ小橋アリ橋頭ニ又
番舎「ツ」テ嚴ニ出入ノ人員ヲ改メ官許ヲ得サ
ル者ハ一人ニテモ往來スル「ナ」ヲ得ス本島ノ周

國ニ高キ木造ノ壁ヲ統ラシ壁ノ上端ニハ倒マ
ニ鉄釘ヲ立ツ出島ノ北方ニ當テニ、水門アリ
和蘭船來着ノ時此門ヲ閉キ島内ニ入シ平日
ハ船船ノ出入ヲ嚴禁ス其嚴酷ナルヲ以テ察ス
ヘシ
日本室府ヨリ和蘭人由島ニ於テ煉化石ノ居宅
ヲ立ルヲ許サス是故ニ其居宅ハ松樹トヤト
ノミニテ作レリ島内ノ譯官書記生僕從等ノ直
番所ニハ平日ニテモ必ス監察小吏ヲ備フ其俸
給ハ悉ク和蘭人ヨリ與フ又長崎市中ノ小官不

意ニ來テ出島館内ヲ検査スルヲアリ和蘭人ノ
長崎ニ在留スル形况ヲ他人ヨリ一見スル時ハ
優然寛大ノ處置ヲ受ケ居留スルニ似タレ共其
實ハ右ノ如ク禁錮セラレ嚴酷ナル處置ヲ受ケ
在留セリ
和蘭船長崎ニ入港スレハ日本政府ヨリ先ツ銃
砲彈藥ヲ預リ船中ノ諸具ヲ検査ニ且船中ニ積
ミ來ル所ノ諸品ノ目錄ヲ出サシメ其後始テ水
夫等ヲ島外ニ上陸セシメ出港ノ時マテ番兵ヲ
備ヘ島外ニ出ルヲ許サス

日本人ノ出島ニ勤ル者ハ毎年兩三度宛必ス幾
利西丹教ヲ信セサル誓約ヲ為サシノ其足心ヲ
以テ幾利西丹ノ磔死スル肖像ヲ踏シム和蘭人
ニモ此肖像ヲ踏シムトイフ説アレ共全ク虚説トス
和蘭人モ日本ニ在テ公ケニテハ敢テ幾利西丹宗ト
唱フル事ヲ得ス嘗テ長崎ニ於テ幾利西丹宗ノ者
ヲ嚴密ニ檢査アリシ片日本ノ官吏和蘭人ニ向ヒ汝
ハ幾利西丹宗ナルヤ否ヤト尋ネケレハ和蘭人答ヘテ
予ハ和蘭人ナリトイヒシトソ斯ク日本人ノ幾
利西丹宗ヲ嚴禁スルハ實ニ驚クヘキ事ナリ

往時ハ日本ニ在任スル和蘭國ノ長官醫師及ヒ
其他ノ從官毎年江戸ニ赴キ日本王徳川氏ヲイ
フ并謁シテ高價ノ方物ヲ獻呈セシカ方今ニ至
テハ唯四年ニ一タヒ江戸ニ到リ并謁ストイヘ
リ此時和蘭人日本國ノ地形ヲ檢査シ且諸種ノ
物品ヲ目撃シ之ヲ書記シテ以テ世界萬國ニ公
布セリ此等ノ所ヨリ和蘭人日本國ニ交通ニ從
屬セル如ク一般ニ思ヒ為セルニ至リシナリ
ケンヘル氏カ著書ニ一千六百九十年全ク九十
二年元禄三年兩度ニ和蘭人其船舶ヲ離レ毎年

一兩度宛長崎近地ニ遊歩スヘキトテ日本官府
ヨリ許サレタリ然レ共日本ニテ常ニ和蘭人ヲ
疑フ心アルヲ以テ其遊歩スル間ニ於テモ監察
官ヲ従行セシムトイヘリ又「シ」ボル「ト」氏カ説ニ
當時日本ニ在留スル和蘭人等遊歩セント欲ス
ル時ハ二十四時以前ニ長崎鎮臺ニ願ヒ其許可
ヲ得テ遊歩スルトナレ共長崎官員譯官共ニ「シ」
「ン」シ「ト」ト稱スル邏卒ヲ附ラレ其人員ニ十四五
人ヨリ三十人ニ近シトイヘリ此人員遊歩ノ地
ニ到リ其親友知己アレハ之ヲ招テ飲食セシメ

其雜費ハ悉ク和蘭人ヨリ辨セシム然ルニ和蘭
人ノ出島ヨリ遁逃セントラテ恐レ之ヲ警衛スル
官員邏卒ノ給料ハ大金ナルヘケレ共是ハ日本
官府ヨリ賜ヘリ右彼是處置ノ事情ハ悉ク皆和
蘭人ヲ輕蔑スルノ意ナラサルハ無シ是故ニ和
蘭人一人ニテモ出島ノ館内ヨリ出ル片ハ小兒
蟬集シテ之ヲ囀ミ異口同音ニ「ラ」ラン「ダ」ラ「ン」
「ダ」ト唱ヘ大ニ嘲哂セリ和蘭人等好景ヲ訪ヒ勝
地ヲ尋ル間ニ於テ日本人ノ居宅ニ入ルトテ禁
セラレ且必ス日没前ニ出島ニ返着スヘキトテ

命セラル

和蘭人日本人ノ知己ヲ訪ントシ或ハ日本人ヨ
リ饗應ノ為ニ和蘭人ヲ招ントスルヲアル時ハ
此ヲ長崎鎮臺ニ建白シ鎮臺ノ許可ヲ得サレ
ハ行クヲ得ス其行ク時ニ當テハ平日ノ外出
ノ如ク許多ノ官員従行セリ和蘭人等斯ク侮慢
セラルレ共永ク日本國ト交易ノ利權ヲ保持セ
ンカ為唯日本官員ヨリノ命令ニ従フノミナリ
シトナシ

英國ト日本國ト交易ヲ始ル來歴

省官爰ニ到リ上ニ載ル所ノ「ウールリアム」
氏カ日本ヨリ贈リシ所ノ二通ノ書簡ノ一ヲ
思ヒ起スヘシ其一通ハ東印度出張ノ英國商社
ニ贈リ其一通ハ故郷ニ贈リシ書簡ナリシカ上
帝ノ仁惠ニヤ因リケン一通ノ書簡忽チ「バタ
ニア」ニ達シテ商社ノ手ニ入ケレハ之ヲ其本國
龍動ノ高貴ナル東印度商法會社ニ達シケリ此
片此會社ヲ「ウールシッパ」ルヘルロシ「ブラス
ゼメル」キエント「ラフロンド」ニ龍動ノ交易ノ義ト唱
ヘシカ其後其名ヲ「ブロー」ル「エリス」トイフ

ジ―コルペニ賞キ東印度ト改メタリ斯テ英
國東印度會社ニテハ日本へ船ヲ出スノ準備ニ
急ラサレハ忽チ出船ノ旅装調ヒ「ホルキ」ハ氏紀
行ノ事ヲ司レリ此日本行ノ船ノ称号ヲ「クロ―
プト」称シ船將ハ「ジョシ」サリ「トイフ」者ニテ加比
丹ヲ勤メ屢東印度海ニ往返セシ人ナリ借船中
ノ荷物ハ日本人ノ好ム物品ヲ積ミ英國王ヨリ
平戸侯ニ贈ル書簡一通並ニ日本國帝ニ送ル贈
物ヲ受取り一千六百十一年慶長十第四月十八
日英國ヲ出帆セシカ海中ニテ諸所ノ港内ニ止

リケレハ一千六百十三年慶長十第六月十一日
漸ク平戸ニ着シテ大ニ日本人ノ仁愛ヲ受シト
イヘリ斯リケレハ日本國へ和蘭國ノ交易ヲ始
メシモ「ウィルリアム」アダムス氏ナリシカ英國ヲ
シテ日本ト交易ヲ始メシモ亦同氏ナリ
英國ノ船將「ジョシ」サリハ氏平戸ニテ「ウィルリアム」
アリガムハ氏ハ本地ヨリ九百里ヲ隔タル江戸
ニ在住スルヲ聞キ忽チ一書ヲ認メ「アーダム」
ハ氏ニ一タヒ平戸ニ飯リ来ラン事ヲ達シケル
然ルニ「アーダム」ハ氏急ニ来ラサレハ「サリス」氏

カ来^{キガケ}路^ケニバンタ^レヨリ携へ来リタル日本人某
氏能クマレ^レ語ヲ弁スルヲ以テ某氏ヲ譯官ト
シ日本人ト諸事ヲ高評セリ斯レ^レサリス^レ氏國王
ノ書簡ヲ出シ日本語ニテ「ホイネ、サマ」ト唱フル
平戸侯ニ呈シケレハ平戸侯傲然トシテ之ヲ受
取タレ共「アーダム」氏カ来着マテハ開封セサ
リシナルヘシ此時又平戸侯ヨリ英ノ「クローブ」
船ノ平戸ニ来着セシ「アーダム」國王ニ建白アリシ
由ナリ日本ニテハ「アーダム」氏カ名ヲ「アン」
ト呼シトナン

同年即チ一千六百十三年^{慶長十年}第七月二十九
日「アーダム」氏江戸ヨリ平戸ニ来着シケレハ
英將「サリス」氏「アーダム」氏ト交易ノ事ヲ商議
シケル次テ「アーダム」氏日本ニ在テ常ニ故郷
ニ在ル妻子ノ「ト」心配セシ故妻子ノ安否ハ如
何如何ト尋ネシトナン既ニシテ第八月ニ為リ
ケレハ「サリス」氏「アーダム」氏並ニ其他十名ノ
英人ヲ携ヘテ平戸ヲ出立シ江戸ニ赴キケリ是
レ英國王ヨリノ贈物ヲ日本國帝^{徳川氏}ト誤リ^{日本}認メ
ルニ進呈シ且日本國ト交易ノ條約ヲ結

ンカ為ナリ此時平戸侯ヨリ十挺ノ柁ヲ備ヘタ
ル日本船一艘ヲ出シ英人ヲ乗シタケリ「サリ」ハ
氏道中ニテ英国ヨリ来リシ船中ニテノ要件ヲ
説キ示シ殊ニ「ア」ダムス氏ヲ同行シケレハ同
氏ヨリ日本ノ風俗式礼ヲ聞キ且外人日本人ト
交通シテ妨害ナキ「ア」ヲモ聞キ百事滞ル所ナク
諸事諸品見聞スル「ア」ヲ得タリシトソ斯クテ其
後江戸在住ノ日本国帝ニ拜謁シテ懇意ヲ蒙リ
又其書記官ト商議シ遂ニ下條ノ如ク交易ノ特
許ヲ受シ由ナリ

第一條

日本國ヨリ大不列顛國王ノ臣民即チ英國ノ
奉行「ト」マスミス氏其東印度高社並ニ其
豪民ニ自由交易ヲ許シ何時モ其船舶ニ乘リ
商品ヲ積ミ日本港内ニ入り来リ在留シテ其
本國ノ商法ノ例ニ從ヒ我々國民ト商品ヲ賣
買シ或ハ交易シテ少シモ障礙ヲ為サルヘシ
且英國人ノ意ニ任セ或ハ久ク滞在シ或ハ又
速ニ出帆セシムヘシ

第二條

今日本ニ在留スル船舶並ニ後年來着スヘキ
船舶ニ積ミ來ル所ノ商品租税又日本港内ヨ
リ他港ニ積ミ送ル物品ノ租税ヲ免サレ且後
來英國ヨリ商品ヲ齎シ來ル所ノ船ハ日本
ヲ指揮シ別ニ日本政府ヘ出テ其商品ヲ進呈
スル支ヲ要セサルベシ

第三條

若シ英船風波ノ患ニ逢ヒ時ハ日本人之ヲ救
助スルノミナラス此船ハ本ヨリ船中ノ諸品
ニテモ拾ヒ揚シ物ハ其船ノ如比丹若クハ遣

命ノ者ニ返シ渡スヘシ又英人日本国内ニ於
テ其子山所ニ一家或ハ數家ヲ立テ其畝ルニ
臨テ商品ヲ沽却シ得ヘシ

第四條

英國ノ商人及ヒ其他ノ者日本国内ニテ死去
セシ時ニハ其所有ノ物品ハ其相續ノ人ヘ配
分スヘキ為貯ヘ置ヘシ若シ此約令ニ背ク者
アルハ相續人ノ指揮ニ從ヒ其者ヲ罰スヘ
シサレト日本ノ国法ナレハ謝料又ハ物品ノ
價ハ更ニ受サルヘシ

第五條

日本国ノ英人ノ物品ヲ求メハ約定ノ如ク遅延ナク速ニ其代料ヲ拂ヒ物品ヲ返サシムル事ナカルヘシ

第六條

英人今船中ニ携ヘ来リタル物品又後日積ミ来ル所ノ物品日本人ノ意ニ適セシ時ニ至リ之ヲ禁スルヲナカルヘシ唯英人外国ニ到リ強賣ク所ノ價ヲ以テ物品ト代料ト引替ニスヘシ

第七條

英國船日本近地ニ於テ交易スヘキ国ヲ檢出シテ其国ニ到リ再々日本ニ販リ来リ食料若クハ日雇ノ入用アルハ其代料ハ其代料ヲ出サシメ日雇ハ其賃錢ヲ出サシメ日本ヨリ之ヲ辨スヘシ

第八條

日本領内輟車及ヒ其他ニ於テ地所ヲ檢出シ之ニ向フ片ハ別ニ路引^{ワケガイカク}ナクシテ發程シ得ヘシ以上ヲ條約ノ以テ言トス

元來日本國ノ政体ハ開化ニ進ミタル万国ニ及
シテ久ク嚴酷ニ鎖國シタル風習ナルニ今其田
制ヲ変シ別段ノ寛典ヲ以テ英國ニ交易ノ特許
アルハ英國ヨリ日本ニ深ク拜謝セシムルハアル
ハカラス日本人外國人ノ其國ヲ覬覦スルノ心
アルトテ察シケレハ既ニ其入港ヲ制止シ又其
國內ニ在留スル外人ヲ放逐シテ固ク渡來スル
トテ禁セリ然ルニ今又此恣令ヲ変革セラレ英
國ニ入港ヲ許サレタレハ明尙且適當ナルヲ以
テ國人モ後來日本國ヲ保持スヘキ策畧如何ト

其條理ヲ尋不出ル者ナシ是ヨリ先日本ヲ覬覦
スルノ心ヲ抱キシ奸黨ハ歐人ナルヲ以テ其教
黨ヲ國內ヨリ追放セラル然レハ斯ク放逐スヘ
キ基ヲ為セシハ日本人ニ非スシテ教黨等自ラ
追放セラルヘキ罪科ヲ招キシナリ
日本國帝徳川氏ヨリ加比丹サリス氏ニ托シテ
左ノ書簡ヲ英國王ニ贈リタリ
此度始メテ我カ日本國ニ渡來ノ貴國臣民加
比丹ジョーン、サリス氏ニ齎シ來ル貴簡ヲ落手シ
殿下赫々タル嚴威ヲ以テ大國ヲ領シ其位權

才畧ノ洪大ナルヲ兼知シ實ニ大悅ノ至ニ堪
ヘス又此度ハ日本国内ニ於テ未タ曾テ之ヲ
ク且外國ヨリモ渡來セサル多量ノ珍品ヲ辱
フニ謝スル所ヲ知ラス予殿下ト交通スル丁
ヲ好ミ且貴國ノ臣民航海ノ學術ニ富ミ早ク
既ニ蒞范タル萬里ノ洋中ニ在ル邦國ヲ發明
シテ溟濛タル雲霧ヲ破リ忿怒セル波濤ヲ遮
リ遙ニ其臣下ヲシテ商品ヲ齎シ來リ交通セ
シムルノ誠意予モ亦欣然ナラサルニ非ス是
故ニ予モ殿下ノ懇意ニ謝センカ為「サリ」氏

ニ托シテ僅ニ予カ友情ヲ速ク且「サリ」氏等
ヨリ交易ノ特許ヲ請ヒ尚予カ国内ニ於テ商
館ヲ設ケシト懇願シ出ルヲ以テ願意ヲ免シ
其證狀トシテ予カ大印ヲ押シ之ヲ與フ
我カ大裡ノ年号十八年九月四日駿河ノ城
中ニ於テ記ス慶長十

壬國日本ノ高貴ナル軍將即英王殿下ノ親友

源 家 康

右ノ條約ヲ取結テ後一千六百十六年元和ニ至
リ日本ニテ英國トノ條約ヲ少シ改メシ箇條ア

リツレ共別ニ英國人交易ノ為ニ害アルニ非ス
斯テ英船長崎ニ入港シケルヲ日本政府ヨリ平
戸ニ行キ本地ノ商館ニテ交易スヘシト命セラ
レケリ當時日本港内ニ入シ船ハ未タ租稅ヲ取
サル國法ナレハ直ニ出帆シテ平戸ニ赴カント
セシニ逆風ニテ天氣惡ク諸所ニ入港シツレ共
船中ノ商品ハ一物モ賣ルテアタハズ唯諸所ニ
テ船中ノ要品ヲ買シメ夫ヨリ平戸ニ入港シ
テ「サリス」氏其本国英吉利ニ飯ルテ決シケレ
ハ「リキヤルド」コック「ハ」氏ヲ以テ平戸ノ商館ノ後職

トス是ヨリ「コック」ハ「ハ」氏平戸ニ在留シテ英人八人
日本人訳官三人従僕二人ヲ使ヒ勤メケリ「ア」
「ハ」氏モ此八人ノ内ニ在テ多分ノ給料ヲ受
ケ商社ノ要務ヲ弁セシナリ此時平戸ニテ和蘭
國商館ト英國商館ト隣家ナレハ共ニ相親ニケ
ルカ長崎ノ出島ニ在留スル葡萄牙人トハ互ニ
不和ノ情アリシトソ
英人等平戸ニ在留シ土人ト相友愛シテ大ニ信
セラレ「コック」ハ「ハ」氏モ兩三度江戸ニ赴キテ國帝ニ
拜謁セリ「コック」ハ「ハ」氏久ク日本ニ寓居シ其往復ノ

書簡ノ「ポルチヤス」ニテ出板セシヲ見シニ和蘭人
ト共ニ英人モ日本國ニ關係シタル一難事ヲ生
セシニ和蘭人ハ日本へ始メテ渡リシ由ヨリ和
蘭人ノ外悉ク歐洲人ヲ放逐スルトイフ政法ニ
從事シ日本政府ヨリ放逐ノ布告アリシ時ニ至
テモ自若トシテ驚ク事ナク滞在セシナルベシ
英人等ノ商品日本人ノ好マサル物ヲ積ミ行シ
故其失フ所得ル所ヲ以テ不足シケレハ大ニ望
ヲ失ヒ遂ニ一千六百二十三年^{元和}ニ至テハ四
萬^四千^五百^三十^三ノ損失ト為リタルヲ以テ止ム^一ヲ得

ス自ラ平戸ノ高館ヲ閉テ引去ケルサレト惡事
ヲ謀リタルニ非レハ汚名ヲ殘ス^一ナク頗ル称
セラレ自ラ悔悟シテ退キシトイヘリ日本國モ
往時ハ他國ト交易條約ヲ結ビタル共今斯ク為
リタルハ時勢ノ然ラシムル所ニテ敢テ英國ノ
過失アルニ非ル^一明ケシ英人ノ日本國ヲ退去
セシハ島原畿利支丹爭亂ノ以前ニシテ此戰爭
ニ關係セサレハ英人ハ少シモ手ヲ出サ、ル事ト
察セラル英人ノ此島原戰爭ニ關係ナキハ恐ク
ハ彼等ノ為ニ大幸ナルヘシ

英船其後十三年ノ星霜ヲ経テ西寛永十五年即チ
年十六四艘ノ船舶ヲ出シ和蘭人ノ碇泊スル日本
国ノ一港長崎ニ入津シテ再ビ通商ヲ請タレ共
免許ヲ得サレハ愀然トシテ飯サシトソ此時和
蘭人廣ク東海ノ邦國ニ交通シ葡萄牙国ノ旧領
アムボイナ^イヲ^イヂモルニ據リ^イタ^イヒヤニ城堡ヲ
築キ又^イマ^イラバ此^イコロマンデルノ海濱^イモ^イルカ^イニ
セ^イー^イロ^イニ^イラ^イモ^イ領^イシ^イタ^イレ^イハ^イ敢^イテ^イ英^イ國^イト^イ争^イセ^イ廣^イク
交通スル^イト^イラ^イ好^イマス^イ是^イ故^イニ^イ英^イ人^イモ^イ亦^イ和^イ蘭^イ人^イノ
妨^イ碍^イス^イル^イニ^イ非^イル^イト^イラ^イ察^イシ^イ日^イ本^イへ^イ交^イ通^イノ^イ思^イ念^イヲ

絶^イク^イ飯^イ國^イセ^イシ^イト^イイ^イヘ^イリ^イ
此時英国ハ第一世「ホーレス」ノ沼世ニシテ国内
ニ大乱ヲ醸シ政令錯乱シ闇国恰モ暗夜ノ如ク
ナレハ人民一時鎮靜シテ外国ニ出テ廣ク交通
セサルヲ好トス是故ニ英国ノ東印度商社ニ暫
時ハ^イコ^イン^イタ^イム^イノ^イニ^イト^イ通^イ商^イシ^イテ^イ敢^イテ^イ其^イ他^イニ^イ手^イヲ
出ス事ナク唯争乱ノ平定シ政府ノ安然ニ飯ス
ルヲ待ノミナリ
一千六百七十三年^イ延^イ宝^イ英^イ人^イ復^イ日^イ本^イト^イ交^イ通^イセ^イシ
ト欲シ^イコ^イツ^イル^イシ^イト^イ称^イス^イル^イ巨^イ船^イニ^イ乘^イリ^イ岡^イ玉^イヨ^イリ^イ東

海ニモ未タ嘗テ有テサル事ヲ載セタル龍動ノ
ソースウエルハミリー會社ノ名カ蔵書ニ異常ノ大
權ヲ許サレ出帆セリ此時一冊ノ紀行アリ未タ
世ニ公行セスアライシネット氏之ヲ一見シ三條
ノ要件ニ着眼シテ増加セシ所アリ又拔萃セシ
所アリトイフ其一ハ日本人其国界ノ防禦ヲ嚴
ニスル一條其一ハ外国人ノ入港ヲ嚴禁スル一
條其一ハ大ニ葡萄牙人ヲ怨望スル一條ナリ○
先是英國第二世ジョージレバ氏アラガングザノ一女
ヲ娶リ其内室トシ葡萄牙王ト縁者ト為ル和蘭

人此事ヲ日本ニ通ス是故ニ英船日本港ニ入シ
ニ日本人大ニ英人ヲ疑ヒ以前ノ如ク
リシトイヘリ右ノ紀行ハ一千六百七十三年延宝
元英國ノ巨船日本ニ到リ日本ノ官員ト應接シ
タル事ヲ載タル一書ニシテ佛人ノ反譯ナリ左
ニ其文ヲ挙テ此時應接ノ事情ヲ示サン
日本官員英人ニ向テ問テ曰ク足下ハ英國人ナ
ルヤ
英人答テ曰ク然リ拙者ハ此度我カ英國王ノ
命ヲ蒙リ五十年未交誼ノ斷絶シタル日本国

ト英国トノ通商ノ條約ヲ繼キ英国東印度會社ヲシテ再々通商ノ條約ヲ結ビ日本ニ渡来セシメシカ為来リシ者ニテ英国王英ニ右會社ヨリ日本国王陛下ニ奉ル書簡ヲ持參セリト速ニ此書簡ト先年日本国ヨリ免許アリシ條約書ノ謄寫トヲ出シ日本長官ノ前ニ呈ス此條約書謄寫ハ日本文ナリ

日本長官訊官ヲ以テ英人ニ問フ英國ニテハ葡萄牙伊斯巴尼亞兩國ト通信ニ相親ミ居レルヤ英國王葡萄牙国王ノ一女ト婚姻ヲ結ビシ以來

幾年ナルヤ此一女既ニ子ヲ持シヤ英國ニテハ何レノ教法ヲ信スルヤ此度船中ニ積ミ来ル所ノ商品ハ何品ナルヤ

英人答テ曰ク英國ニテハ方今葡萄牙伊斯巴尼亞兩國ノミナラス世界萬國ト交通セリ我國王葡萄牙ノ一女ト婚姻セシヨリ十一年ヲ経レ共未タ一子ヲ得ス教法ハ和蘭国ト同様ニテ羅馬教ニ非ス船中ノ商品ハ一般ノ商品ニテ別ニ奇異ノ物アルニ非ス

後會ノ日日本長官英人ニ問テ曰前年英人ノ日

本ニ入港セシ以来既ニ五十年ヲ経タリ何等ノ
故ヲ以テ久ク来港セサリシヤ

英人答テ曰ク英内ニ内乱起リ又和蘭国ト戦
ヒ其入費數萬且海上甚々危キヲ以テ久ク日
本ニ入港セスト

長官又問テ曰ク此度ノ英船ニ先年日本ニ在留
セシ人ハ来ラサルヤ

英人ノ曰ク嚮ニ日本ニ来リシ人ハ一人モ来
ラス

長官ノ曰ク然ラハ如何シテ日本ニ来ル海路ヲ

知シヤ

英人ノ曰ク我ニ航海圖アリ此圖ヲ閱シテ来
リタリ

長官ノ曰ク葡萄牙国ハ如何ナル教法ヲ尊奉ス
ルヤ羅馬国ノ教法ナラスヤ葡萄牙人ハ「サント
マリ」ト称スル婦人ノ像ト「サントキリス」ト
称スル男子ノ像ヲ持テ之ヲ尊奉スト聞リ實ニ
然ルヤ否ヤ又其他葡萄牙人如何ナル多クノ神
佛ヲ崇敬スルヤト問ヒ掛タリ

英人答テ葡萄牙人等如何ナル多クノ神佛ヲ

信スルヤ委曲ニ之ヲ知ラストイヘリ
長官英國ニテハ古來何ト稱スル教法ト信スル
ヤ葡萄牙ト同様ナルヤト問フ

英人ノ曰ク否否英國ニテハ和蘭ト同ク改正
教法「レ」ホ「ル」ト「フ」尊信セリ是レ即チ天地萬
物ヲ造成シタル至尊神ナリ此外一神一佛モ
尊奉スル神佛ナケレハ画像水像等ノ示スヘ
キ物ナシト

長官問テ「サ」ントキリス「ト」ハ何人ナルヤ又「サ」
タマリ「ア」ハ何人ナルヤト云ヘリ

英人「サ」ントキリス「ト」ハ神ノ子「サ」ンタマリ「ア」
ハ「マ」リア「ト」イフ處女ノ子ナリ英國ニテ「サ」
タキリス「ト」ハ「サ」スレ共「マ」リア「ア」ハ「サ」スル者ナ
シト答ヘタリ

長官和蘭人ハ神ヲ拜スルヤ
英人過刺速ニ如ク英人ト同様ナリ
長官和蘭人ノ拜スル神ハ何ト稱スルヤ「キ」リス
「ト」稱スルヤ又和蘭英ニテ葡萄牙人ノ教法ヲ
ハ何ト稱呼スルヤ
英人葡萄牙人ノ稱スル教法ハ英國ニテ「ロ」マ

シカトリック教ト称スト答フ

長官此教法ヲ尊奉スル人ハ何教ト称スルヤ

英人我カ英国ニテハ羅馬教又羅馬「カトリック」
教ト称ス

長官葡萄牙国ニテハ其教法ヲ何ト唱フルヤ

英人葡萄牙語ニテ「レ」ハ英語ニテ「レ」ナ
ク「ト」唱ヘ即チ異教ノ義ナリ

右ノ如ク長官ト英人ト應接アル最中ニ英船ニ
テ國旗ヲ揚ケ西風ニ翻コト翻シケレハ長官遙
ニ之ヲ見テ英人ニ向キ足下ノ船ニ於テ入港以

来旗ヲ揚サリシニ今日急ニ揚タルハ何等ノ故
ナルヤ

英人今日ハ我カ國ノ休日ナリ七日目ハ毎月
休日ニテ此日ニハ必ス旗ヲ揚ルヲ以テ英国
ノ風習トス

長官英国ニテハ神ハ毎日何時ニ拜スルヤ

英人毎朝毎晩之ヲ拜ス

長官和蘭ニテモ英国ノ如ク毎朝毎晩神ヲ拜ス
ルヤ

英人貴意ノ如ク同様ナリ

日本長官英國ノ旗ニ「シ」ナル正氏ノ十字ヲ画キ
メルヲ見テ頗ニ疑念ヲ生シ屢十字ヲ画キシ所
以テ問フ

英人又曰ク我カ英船ノ旗ニ画キタル十字ハ
邪教ノ記号ニ非ス又宗法ノ記号ニモ非ス唯
英國ノ船船タルヲ表シタル記号ニテ葡萄
牙国ノ旗ニ用フル十字トハ大ニ異ナル所ア
リト

長官英國ハ葡萄牙或ハ伊斯巴尼亞ノ管轄ナル
ヤ

英人否否我カ君長ハ三大国ノ手位ニシテ葡
萄牙王ニ比スレハ其威權頗ル強大ナリ
長官サレハ英國ノ記号ハ葡伊兩國ヨリ免許ヲ
得テ用ルニハ非ル歟

英人英國ニテ十字ヲ画キタル旗ヲ用ヒ来リ
シハ僕等ノ曾テ記憶セサル時代ヨリノ十字
ニ共紀元五百年代以前ヨリ用ヒ来リシナリ
○右ノ如ク十字旗ノ下ヲ委ク迷タル共日本
官員承諾セサル様子ニテ愆意ヲ以テ竊ニ告
ルニ日本ニテハ十字ノ旗ヲ揚レハ必ス葡萄

牙人トスルヲ以テ願クハ十字ノ旗ヲ揚ケ給
フナトイヒシトソ借夫ヨリ此度英国ヨリ交
易ヲ願ヒ出タレ共日本国帝免許ナキ趣ヲ告
ケ来レリ

長官英人ニ日本国帝ノ返簡ヲ渡シ告ケルハ日
本ト再度交易條約取結度由ニテ實ニ其理ナキ
ニ非レ共英国王ハ葡萄牙王ノ娘ヲ貰ヒ婚姻シ
タルヲ以テ免スヘカラス我カ国帝足下等ヲ速
ニ飯シ復タ来ルヲナカラシメヨト嚴命ナレハ
予等之ニ背クアタハス天气順風ニ變セハ速

ニ出帆シ假令遲延スル共必ス二十日ヲ出スニ
テ本港ヨリ退去スヘシト
英人今方ニ定風ニテ西ヨリ吹ク風ノミナレ
ハ此風一變スルニ非レハ出ルヲ能ハスト
長官然ラハ足下等尚本港ニ何日程碇泊セニト
欲スルヤ
英人本港ニ尚四十五日モ碇泊セニ此日數ヲ
終タラハ定風モ一變スヘシ○此時英人船中
ニ齎シ来レル商品丈ニテモ日本ニテ賣却セ
ン莫ク願ヘリ

長官我カ国帝英船ノ商品ヲ賣買スルヲ堅ク
禁シ給フヲ以テ我等ニ国帝ノ命ニ背クヲアタ
ハス是レ英國ニテ葡萄牙国ト盟約セシ故ノ不
幸ナリ

前條ニホス問答ノ如クナルヲ以テ英人再々交
易條約ヲ結フ莫アタハス是レ英國ニテ葡萄牙
ト婚姻セシノミニ非ス和蘭人自ラ好テ英國人
ノ日本ニ交通スルヲ拒ミシト疑ナカルヘシ若
シ此外ニ他ノ故障ナキ片ハ和蘭人英國ノ葡萄
牙ト婚姻セシトテ日本ニ報告シ以テ英人ノ日

本國ト通商スルヲ妨ケシト明ケシ此時英船口
チエルニ船中ノ諸人皆和蘭人ノ為セシ所ナリト
推セシトソ
右ニ速ル如ク英人日本ニ入港シテ其功ナカリ
シ後大約百年余ヲ経テ一七九一年寛政三
アルコノトト称スル英船亞国ノ西北海濱ニ
到リ毛皮ヲ交易セシ般路日本海ニ入津セリ此
時英船日本港内ニ入ケレハ常法ノ如ク小船ニ
テ其周圍ヲ圍ミ恰モ小船ノ網ヲ張タル如クニ
テ我カアルゴノトヨリ海濱ニ往来スルヲ

許サ、ルハ一物ヲ得ルヲアタハス唯僅ニ船中
ニ得タル物ハ薪水ノ兩品ノミ是ニ於テ「アルゴ
ノ」止船モ施スヘキ術ナク退船セシトナリ
一千八百三年^三享和^年英國ノ商客アレデ^レッ^ク氏「カ
ルキユツクヨリ船ヲ出シ商品ヲ積テ日本ニ赴キ
シカ港内ニ入ルヲ許サレヌシテ二十四時ヲ
期シ出帆スヘシト命セラレケル日本ニ於テ斯
ク無礼ナル處置セシハ必ス和蘭人ノ所為ナル
ヘシ○此後英人印度ト戦テ屢之ニ勝テ東海ニ
於テ大ニ兵威ヲ逞フス此戦争ニ和蘭人其軍費

ヲ命セラシ先年ヨリ和蘭人ノ着眼シテ穩脚地
ト爲ント欲セシ地位「クリア^クワ^クル^クレ^クン^クハ^クス^クチ^クン
ク^ク」等ノ為ニ奪掠セラレ水上ノ泡沫ト爲ル和
蘭人等斯ク其宿志ヲ遂ルヲアタハサルヲ以テ
英人ノ日本ニ來リ交易セント欲スルヲ妨ケ以
テ其怨恨ヲ報ス是レ和蘭人其妬心ヲ含ミ且日
本人ノ意ヲ察シ行ヘルナリ「クリア^クワ^クル^クレ^クン^クハ^クス^クチ^クン
度戦争ノ顛末ヲ日本ニテ能ク承知シ居レルハ
和蘭人ノ告シナルヘシ又和蘭人已レハ耻辱ト
過失トヲ飾リ英人ノ勝利ト成功トヲ包ミ日本

ニ報告セシテ分明ナリ是故ニ和蘭人英人ノ姓
實ノ暴戾兇惡ニシテ近親スヘカラサル數例ヲ
引キ就中其一ヲ挙テイヘルニ和蘭國へ每度許
多ノ物品ヲ送リシ事アリ是レ其徴ナリト今此
事情ヲ熟察スルニ英人日本ニ於テ過失アリシ
事ヲ謝スルニ非ス英人ハ和蘭國ト同宗ナレハ
其初ヨリ共ニ日本ト交易セントヨリ謀リ葡萄牙
亞米利加其他幾利支丹教法諸國ノ日本ヨリ交
通スルトヨリ許サレサル所以及ヒ和蘭ノ歴史ニ
載ル如ク奴隸ノ如ク蔑視セラレテ專賣ノ權ヲ

得タル所以ヲ探索センカ為メ斯ク物品ヲ送リシ
ナリ
此後英國船ノ日本ニ到リシハ一千八百八年^化
年トス本年第十月長崎港ヲ遙ニ離レ海上ニ和
蘭國ノ旗章ヲ立タル洋製ノ一船見ユ此時長崎
出島ノ高館ニ在留スル和蘭國ノ長官ハ「ツーフ
トイヘル人ナリシカ毎年「バタ」トア「ヨリ和蘭
船ノ日本ニ來着スヘキ時ナレハ必ス和蘭船ノ
入港セシナラント心中大ニ悦ビ「ゴゼマン」トイ
ヘル檢書官ニ一人ヲ托シ小舟ヲ命シテ出帆セ

シム又日本ヨリモ訳官ヲ小船ニ載セ出船セシ
ノケレハ此兩船齊シク彼和蘭國ノ旗章ヲ立タ
ル彼洋船ニ向ヒ進ミ行ヒ「ツ」氏ヨリ出セ
シ一船先ニ進ミ日本訳官ノ一船少シ遅レテ達
セシ時彼洋船ヨリモ小船ヲ出シ和蘭人ニ面會
ヲ請ル如クナリシカ其水夫ヲ視レハ武器ヲ隠
シ貯ヘ居レリ既ニシテ彼ノ小船「ゴゼマン」氏カ
船ニ達スルヤ否ヤ忽チ來リ移テ「ゴゼマン」氏等
兩人ヲ捕ヘ嚴酷ニ束縛シ本船ニ引キ皈リタリ
ト日本譯官等出島ニ皈テ長崎奉行ニ建白セリ

奉行此建白ヲ聞テ且驚キ且怒リ我カ王国ノ免
許ヲ蒙リ法律ニ遵奉シ居留スル和蘭人ナルニ
和蘭國ノ旗ヲ立テ來リ何ソ斯ク乱暴狼藉ニ及
ヘルヤトテ更ニ其事情ヲ解スル「アタハサリ
シガ」氏ハ彼ノ洋船トイヘルハ英船ニテ
今英國ト和蘭國ト戦争ニ及ヒシヲ頃ニ推知
セシトソ偕夫ヨリ長崎奉行拂然トシテ大ニ怒
リ訳官ヲ召シ譴責シテ曰ク汝等「ゴゼマン」等ヲ
誘引セサレハ再々我カ眼前ニ來ル「アタハサリ」ト
トテ直ニ兵隊ヲ召シ彼洋船ヲ撃チ復讐セヨト

命シケリ然ルニ長港港頭宿衛ノ兵隊ノ陣営ヲ
檢セシムレハ隊長ヨリ兵士ニ至ル迄大半竊ニ
其郷里ニ遁レ皈リ陣営恰モ空舎ノ如ク僅ニ六
七十人ナリケレハ愕然トシテ又大ニ驚キ為ス
所ヲ知ラス奉行自ラ以為ラク我レ常ニ自ラ出
テ此兵隊ヲ指揮スルノ任ニ非スト雖之ヲ總轄
スルハ即チ我カ任ナリ然ルニ我今斯ク空営ナ
ルヲ知ラサリシハ我カ過失大ナリトス我亦存
命スヘカラストテ自ラ死期ヲ定メ覚悟セシト
イヘリ

本夜十一時彼ノ洋船ニ抑留セラレタル和蘭人
ヨリ出島在番ノツト氏カ許ニ一片ノ書簡ヲ
送レリ其文ニ曰ク此洋船ハミンカルヨリ来レ
ル船ニテ船將ノ名ヲベルレウト称ス薪水食料
ヲ請ニカ為入港セリトツト氏此書ヲ見左右
ヲ顧ミテ謂テ曰ク此船ハ英國ヨリ東海ヲ巡歴
セシムル水師提督ツリユリ氏カ船隊ノ一トニ
ト号スル船ナリ予カ嚮ニ推察セシ如ク我カ和
蘭国ハ佛蘭西ニ從属シ英國ト戦争ヲ始ム是ニ
於テ提督ツリユリ氏ヨリ船將ベルレウ氏ニ命シ

テ日本海ニ渡来セシメ長崎ニ在留スル和蘭國
ノ高社ヲ追捕セシメントス斯テ心ルレウ氏一
月モ海上ニ飄泊シテ和蘭船ノ長崎ニ入港スル
時期ヲ窺ヒ来リ捕ヘント謀レルナリト
ツノフ氏モ長崎奉行ノ許可ヲ得サレハ本ヨリ
彼ノ英船ニ薪水食料ヲ與フル丁アタハス假令
又奉行ヨリ許可アリテモ英國ハ今現ニ其本国
和蘭國ノ讐敵ナレハ與フル事ヲ肯セサルナル
ヘシ
長崎在留ノ日本國奉行斯斯ク切迫危難ノ地ニ

臨ミケレハ其部下ノ官吏奉行ノ前ニ出テ建言
シテ曰ク此度英船一件ニ於テハ日本ニテハ明
白ニ日本人ノ勇威ヲ示シ且國律ヲ行フベシ是
レ愚臣ガ誠意ナリ元來英船ニテ偽計ヲ以テ和
蘭人ヲ抑留セシ度ナレハ我亦之ニ報スルニ偽
計ヲ以テスルモ非トスヘカラス因テ愚臣甘言
ヲ速ニ懇意ノ形ヲ顯ハシ單身ニ短劍ヲ懷ニシ
彼カ船中ニ赴キ船將ニ面晤ヲ請ヒゴゼマニ等
ヲ返サンテ請ヒ若シ船將承諾セス返サ、ル
時ハ直ニ進テ懷劍ヲ拔キ船將ヲ殺戮シ愚臣モ

共ニ自殺セシ抑偽計ヲ以テ人ヲ殺戮スルハ日
本國ノ習俗ナラスシテ甚タ耻ヘキ事ナレトモ
彼ノ英船和蘭人ヲ欺カンカ為僞テ我國ヲ欺ク
斯ク欺ルハ豈大辱ナラスヤ是レ愚臣カ身命
ヲ抛ント欲スル所以ナリト 此吏ヲ建言セシハ
衛門力第同ク貞四郎トイハル者ナリ此時貞四
郎ニ百俵ヲ賜ハリ新ニ大砲隊長ニ命セラルト
壽人此事ヲ官ヨリヅト氏ニ商議アリシニ同
傳聞
氏ノイヘルハ此謀畧極テ妙ナレ共某氏徒ラニ
死シテ功ナキノミナラス和蘭人ニ名モ亦死セン
然レハ實ニ無益ニ屬スト是ニ於テ此謀畧ハ止

タリトイヘリ
又一席奉行所ニ於テ會議ヲ催シ長崎近國ノ諸
侯ヨリ兵隊ヲ出ス迄他事ニ托シ英船ヲ抑留セ
ントイヘルニ一決セリ然ルニ其翌日英船ヨリ
ゴヤマンニ一書ヲ齎シ長崎ノ海濱ニ送り返シ
ケル其文ニ曰ク今我一小舟ヲ出シガゼマンヲ
遣ヒテ薪水食料ヲ求ム若夕刺迄ニガゼマンヲ
再々此船ニ返シ回答ヲ贈ラサレハ明朝必ズ港
内ニ入り埠頭ニ碇泊スル支那船日本船ヲ悉ク
焚燒シテ一條ノ煙ト為サント書キ載タリ

ガゼマニ氏和蘭商館ニ皈テ「ツ」氏ニ陳述ス
ル所ニテハ僕初メ英船ニ捕ヘラレシ時船將ニ
面謁ヲ請タレハ十八九歳ノ少年出テ来テ僕ヲ
船中ノ小室ニ誘ヒ日本港内ニ和蘭船碇泊スル
ヤ否ヤ明白ニ報告スヘシ若シ之ヲ包シ隠ス
アラハ忽チ汝ヲ嚴刑ニ處セント脅シテ以
テ僕實ニ本年ハ来着セストイヘリ此時船將出
来リ詰問シテイヘルハ我能ク知レリ汝尚偽テ
實事ヲ告サレハ我自ラ小艇ヲ進メテ港内ニ入
リ和蘭船ノ有無ヲ正サン其時ニ至リ汝カ云フ

所ニ違フ「ア」ハ忽チ汝ヲ誅戮セン宜ク自ラ
考フヘシト其言未タ終ラサルニ船將小舟ヲ命
シテ漕出シ港内ヲ一見セシニ一葉ノ船船ナケ
シハ僕ヲ送り返シタリ實ニ僕ノ僥倖ナリト夫
ヨリ右ノ薪水食料ヲ求ル書簡ヲ作り僕ヲ小舟
ニテ海濱ニ送ラントス別ニ臨ミ又告ケルハ汝
日本人ヨリ薪水食料ヲ受ルト受サルトニ論ナ
ク再々本船ニ来ルベシ否ラサレハ汝カ同行ノ
一人ヲ留メ置キ之ヲ誅戮セント
長崎奉行ガゼマニ氏カ談話ヲ聞テ怫然トシテ

怒気ヲ顯ハセシカ「ツ」氏ヨリ頻リ「ガゼマ
ン」ニ托シテ薪水食料ヲ與ヘン「フ」ヲ請タルヲ以
テ遂ニ之ニ同意シ與ヘラレケレハ其後英船ニ
抑留シタル和蘭人兩人ヲ彼ヨリ小舟ニ乗シメ
送り返シケリ夫ヨリ奉行ハ江戸政府ノ命ノ到
ルマテ英船ヲ抑留スヘキ策畧ノミヲ運ラシケ
ル然ルニ台命ノ来ル迄如何スヘキヤト子思萬
慮アリケレハ又「ツ」氏ヲ呼ビ其服臈ナキ計
畧ヲ尋ラル「ツ」氏ノ云ク兵隊整備シ一戦ア
ラハ英船ヲ擒ニセン「フ」難キニ非スト又大村候

ヨリ建言ニ英船ヲ誅伐アラハ我カ藩先陣シテ
奮戦シ日本人ノ武勇ヲ輝カサント其士気甚々
隆盛ナリ大村候建言ノ策畧ハ小船三百艘ヲ募
リ之ニ藁拈草ノ類ヲ積テ英船ノ周圍ヲ圍ミ燒
夷セント欲スルナリ此時不幸ニシテ英船ノ為
ニ砲撃セラレ小船二百艘ヲ失フ共尚百艘ノ残
船アレハ之ヲ以テ英船ヲ燒夷セン此募ニ應ス
ル船ノ水夫ハ皆水泳ニ熟練スル者ヲ撰フニ在
リト
此時「ツ」氏ヨリ又一策ヲ奉行ニ建言セリ明

日薪水等ヲ與ヘントテ甘言ヲ以テ英將ヲ抑留
シ其間ニ多クノ小船ヲ募リ集メ之ニ石ヲ積テ
竊ニ今日ヨリ今夜ノ内ニ長崎ノ港口ニ投シ以
テ英船ヲ港外ニ出ル事ナカラシメント是ニ於
テ奉行モ此策ニ同意シ行ハントセシカ俄ニ長
崎出帆ノ順風起リタルヲ以テ英船ハ順風ニ白
帆ヲ翻シ大海ニ衆出シ何所トモ無ク行キシト
ナン
マックハルラ子氏評シテ云ク此度ノ策畧ヲ成就
セハ實ニ刀劔ニ響ラス彈藥ヲ費サスシテ全勝

ヲ得ル事ナレハ日本ノミナラス世界萬國ニ於
テモ奇計妙策トシ必ス大ニ稱賛セシ然ルニ順
風俄ニ起テ英船出帆シケレハ日本官吏不幸ニ
シテ之ヲ行フアタハス惜ムヘシ惜ムヘシ備
此度英船長崎入港ノ一事ニ於テハ奉行ノ身ニ
於テ日本ノ国律ヲ缺キ實ニ遁ルヘカラサル譴
責アリ是ニ於テ奉行英船出帆後僅ニ一時ナラ
スシテ自ラ其手中ニ一劔ヲ取り日本ノ国法ニ
照シ之ヲ其腹中ニ貫キ遂ニ自滅シタリケル一此
事ハ和平圖書頭長崎奉行ヲ勤サリシ片ハ奉行ニ
長崎西番所ノ空虚ナルヲ知ラサリシハ奉行ニ

カル者ノ大ナル落度ニ及ヒリ上ニ對シ存命スヘ斯リ
ケレハ長崎港頭陣營ノ在番ヲ急リ其郷里ニ皈
リタル士官等モ皆奉行ニ徇ヒテ切腹シ又「ゴゼ
マシ」等ト英船ニ同行シ遁レ皈リタル譯官ハ江
戸ニ呼ビ出サレ再ヒ長崎ニ皈リ来ラス和蘭人
等モ其結末ヲ知ラスト記セリ此時日本人ノ自
殺シタル者十三人ト肥前侯ト稱スルハ長崎
ノ陣營ニ在番セシ士官等ノ君主ナリ英船入港
ノ時肥前侯ハ江戸ニ參勤アリ其部下ノ士官ノ
急愒ナル故ヲ以テ一百日ノ閉門ヲ命セラレタ

リ是故ニ日本ニ於テ此度「ト」トニ船ノ入港ニ
テハ大ニ国ノ為ニ損害ヲ生シタルヲ以テ衆皆
英人ヲ怨望セサルハ無シ
右ノ英船日本ニ入港ノ後五年ノ間ハ歐洲悉ク
戰國ト為リ和蘭国及ヒ其屬地ノミナラス諸国
ニテ戰爭起リケレハ長崎出島ニ在留ノ和蘭人等
唯日本ニ在リシ「ト」ノミハ傳聞シタレ共歐洲ノ
「ト」ハ一事モ知ラサリシト人ヘリ
一千八百十三年^{文化十年}第七月出島在留ノ和蘭人
等洋中遙ニ和蘭国ノ旗章ヲ立タル兩船ノ見ユ

ル報告ヲ聞キ大ニ喜悦シ是レ必ス和蘭国ニテ
例年バタビーアヨリ送ル高船ニ疑アラシト評
シケル斯リケル所ニ洋中ノ船ヨリ書簡来着セ
リトテ高館ノ海濱ニ達シケレハ「ゾ」氏此書
ヲ開キ見ルニ一船ノ將官ハ先年出島高館ノ長
官ヲ勤メタル「ワ」ルデナル氏ニテ此度又和蘭
政府ノ命ニ由テ書記官醫師ヲ携へ来リ即チ先
年「ソ」氏ヲ賤官ヨリ推舉セシ人ナリ又一船
ノ將官ハ其姓ヲ「カ」サト称スル人ニテ三人ノ属
官ヲ携へ来リ「ゾ」氏ノ後任ヲ勤ムル者ト記

セリ是ニ於テ「ソ」氏出島ニハ僅ニ三人ヲ残
シ其餘ハ管庫「ゴ」ロムホ「フ」氏ヲ長官トシ悉ク洋
中ノ船ニ行キ面會セシメケル暫時ニシテ「テ」ロ
ムホ「フ」氏等出島ニ返リ来リ「ゾ」氏ニ「ワ」ル
デナル氏實ニ船中ニ在リ又先年屢出島ニ来住
シタル和蘭国ノ加比丹「ボ」ールマニ氏モ来リ来
リタレト船中ノ形况例年ニ異ニシテ怪シキ所
アリ又船將常例ノ如ク船官ニ政府ヨリノ書簡
ヲ渡サスシテ自ラ「ゾ」君ニ渡サントイヘリ
ト告ク既ニシテ両船長崎港内ニ入タルニ水夫

等皆能ク英語ヲ用ルヲ以テ日本人モ一千七百
九十五年^{寛政七年}以來ハ英語ヲ聞キ覺ヘケレハ此
兩船ハ元來亞船ナレ共亞人ハ其性廉潔ニシテ
掠奪スヘキ憂ナキヲ以テ和蘭國ヨリバターヒ
了ニテ雇ヒ入レ來リシナラント察シタリ然ル
ニ尚疑キ事情アレハハッー氏自ラ能ク之ヲ探
索セントテ小舟ニ打乗リ赴キケレハ「ワールデ
ナ」氏面會シテ年來ノ旧情ヲ述ヘ一書ヲ出シ
「ハ」氏ニ渡シタレド予共ニ書記官ト共ニ出
島ノ商館ニ着スル迄ハ此書ヲ開ク了ナカレト

戒ノ甚夕恠キ所アリ夫ヨリ既ニ出島ノ館内ニ
着シ「プロムホ」氏「ワールデナ」氏各書記官三名
ノ眼前ニテ「ツ」氏彼ノ唇齒ヲ披見セシ「ワ
ールデナ」氏ヲ以テ日本出島商館ノ長官ニ任
ス氏哇及其屬島ノ鎮臺流的南社^{官名}「ラフレ」記
ストアリ「ツ」氏之ヲ見テ愕然トシテ大ニ驚
キシ体ナレハ「ワールデナ」氏書記官等「ツ」
氏ニ向テ足下ノ久ク遠國ニ在留ノ間ニ於テ西
洋ニテハ大ナル變革ヲ生シ和蘭國ハ其屬國ト
共ニ佛蘭西ニ從屬ストイヘリ「ハ」氏益々驚キ

今書中ニ載タル「ラフレ」氏トイヘルハ如何ナル人ナリヤト問フ此時「ワイル」氏書記官西氏ヨリ歐羅巴洲中五年以來變革ノ更跡ヲ述ケレハ「ツ」氏始メテ和蘭國ノ他國ノ所屬ニ屬シ瓜哇ニ英國ニ從屬シテ「ラフレ」氏ノ管轄ト爲リタル「ラ」ヲ知リ「ワイル」氏「アイ」ンスリ「」ノ西氏日本在留ノ長官ニ命セラレケレハ出島ノ百物百事ヲ此西氏ニ渡サ、ル事ヲ得サルニ至レリ是ニ於テ「ツ」氏「ワイル」氏於テ熟思スルニ和蘭國ノミ特リ數十年來日本國ト交易ノ

握ヲ恣ニシ居シテ今之ヲ英人「ラフレ」氏ノ手ニ與ルハ奇異ナル「」ニテ又遺憾ニ堪サレ「」ナリサレハ西氏ノ告諭ニ從ヒ難シトテ「ツ」氏以爲ラク日本國ハ本ヨリ瓜哇ノ屬國ニ非ス又和蘭國ヨリ日本ノ交易ヲ英國ニ渡スヘキ命アラサレハ決シテ渡シ難シ故令瓜哇ハ既ニ英國ニ降ルト雖予ハ和蘭人ナレハ本國ヨリ命アル迄ハ英國ニ服從スヘカラスト是ニ於テ又思慮セシカ「ツ」氏本ヨリ伶俐ナル性質ナレハ忽チ彼ノ船將水夫等ノ説破スヘキ所ヲ察シタレ

明白ニ之ヲ日本人ニ告ルルハ「ト」ト「船」ノ時
ノ如ク日本人大ニ忿怒シテ必ス追撃セシ然レ
ハ爰ニ一ノ便道ヲ設ケ所置スルニ如スト思惟
シ在館ノ「ブライシネット」氏ヲ招キ商議マシニ同
氏ハ平日ヨリ日本ニ於テ和蘭國ノ為ニ百隻ヲ
周旋シ義氣慈心アル人ナレハ「ブ」氏ニ同意
セリ又「マクハル」氏ハ英國ヲ以テ「ブ」氏
ノ怨敵ト称シ且「ワ」ルゲナル氏ハ「ブ」氏ノ
親友同國旧恩人ナレト日本ニ取テハ讐敵ナリ
ト称セリ「ブ」氏兩氏ノ説ヲ聞シニ其説相及

スルヲ以テ急ニ決定シ得サリシカ此交易ノ利
ヲ他人ノ手ニ落サンヨリハ寧唯誠實愛情ヲ以
テ百隻ヲ慶置シ和蘭國ノ商法ニ心ヲ用ル名譽
ヲ高ク轟シタルニ如スト決意シケリ
長崎在留和蘭國商館ニハ五年以來「バ」タ「ヒ」ア
ヨリ商品金錢少シニ来ラサルカ故ニ飲食衣服
等ノ入費ヲ悉ク日本ヨリ借用セサルヲ得ス
シテ大負債ト為リタリ是ニ於テ「ブ」氏「ワ」ル
ゲナル「アインスリ」兩氏ニ向テ足下等今此
ハ英國ニ属シタリト云ヘリ此更ヲ以テ明白ニ

日本人ニ告ナハ忽テ大變ヲ生セシトテ大ニ兩
氏ヲ恐怖セシメ儲夫ヨリ「ブ」氏イヘルハ此
大變ヲ轉シテ予ト同意協力シ條約ヲ結ビ平穩
ナラシムルニ如カス其條約ノ第一條ハ今足下
等ノ來來レル兩船ヲ和蘭國ニテ雇船ヲ雇ヒ亞
人ノ保護ニ由テ渡來スト唱フヘシ其第二條ハ
「ワ」ルデナル君ハ先年出島ノ長官ヲ勤メ給ヒ
シ「ア」レハ日本人モ皆和蘭人タル「ア」ラ知レリ
是ヲ以テ和蘭國ヨリ雇船ヲ雇ヒ來リタル證ト
スヘシ其「ア」ニ條ハ予右ノ如クシテ「ワ」ルデナ

此君並ニ船中ノ英客諸氏ヲ救助セシ願クハ兩
君兩船ノ商品ヲ悉ク例年ノ如ク予ニ托セヨ予
之ヲ日本ノ商客ニ配當シ賣却シテ其利ヲ取り
五年以來日本ヘノ負債ヲ償ヒ其餘金ヲ以テ日
本ノ銅ヲ買ヒ入レ兩船ニ積シムヘシ其後此兩
船「バ」タ「ビ」アニ販着シテ銅ヲ賣却セハ予ヨリ
兩君ニ和蘭銀貨ニ万五千「ド」ルヲ與シ與ヘ
タルト定ムヘシ「ブ」氏右ノ如ク「ワ」ルデナ
ル氏ト條約ヲ定メ此度ヲ日本官吏ハ本ヨリ譯
官ニモ秘シテ速ニ船中ノ商品ヲ揚シメ又速ニ

日本ヨリ銅ヲ受テ取リ出帆セシタリ是レ先
年「ヘー」トシ船入港ノ時長崎ニ在勤シ番兵不在
ノ事ニ由テ自殺シタル奉行ノ嫡子某氏江戸ニ
テ顯官ニ在リ若シ「ワール」デナル氏等ノ船英船
タル「ワ」ヲ知ラハ必ス其父ノ仇ヲ報スルノ機會
到レリト襲ヒ来ラン「ワ」ヲ恐レタルニ由テナリ
サレト「ワール」デナル氏等由島ニ在留ノ間ニ於
テ何ノ危難モナク平穩ニ臥睡ニ臥リシトソ
此時「ワ」フレ「ス」氏ヲ親友等評シテ此度同氏ノ日
本ニ二艘ノ商船ヲ送りタルハ實ニ甚ク失策ナ

リトイヘリ「ワ」氏若シ長崎ノ商館ヲ「ワール」
デナル氏ニ渡シ日本又其英又ナル「ワ」ヲ知ルニ
至ラハ忽チ日本ニテ由島ノ商館ヲ破却シ英又
ハ悉ク殺害セラルヘシ然ルニ其翌一千八百十
四年「文」年「ワール」デナル氏ハ先ツ飯ヲ束縛ノ
難ヲ免レ「カッサ」氏モ他船ニテ飯ヲレハ共ニ危難
ニ罹ラサレヒ翌年モ初ノ如ク来船セハ狡猾ナ
ル「ワ」氏ニ悉ク高品ノ利分ヲ奪ハレ「カッサ」
氏由島ノ長官ト為リ益困苦ニ至ルヘシ「ワ」
氏ハ「ワ」フレ「ス」氏等ヲ謀ル所ヲ取テ尽ク盡餅ト

為シケレハ「ワールデナル」氏カ為ニハ實ニ讐敵
ヨリモ甚シ○此時「ツ」氏渺茫タル遠海ヲ隔
テ遙ニ日本ニ來リ和蘭國ノ旗章ヲ翻セ共斯ク
和蘭ノ交易ノ盛ナルハ世界中唯日本國ノミト
ス其後和蘭國王ノ家脈再興シ瓜哇モ古昔ノ如
ク和蘭ノ所轄ニ復シテヨリ日本トノ交易始テ
往古ノ如ク為リケレハ和蘭ヨリ新任ノ長官來
リ「ツ」氏漸ク交代シテ飯國シケリ
一十八百十八年^{文政}英國海軍ノ如比母「ゴ」
シ氏僅ニ六十五噸ノ小舟ニ乘リ江戸海ニ入港

セシカハ日本ヨリ直ニ數十ノ小舟ヲ出シ其周
圍ニ蟻集シ擲砲銃砲彈藥ヲ奪ヒ之ヲ海濱ニ揚
ク和蘭款官一名魯西亞款官一名英吉利款官ニ
名ヲ出シ和蘭國ト英國トハ當時相親和セシヤ
此度乘リ來リタル船ハ東印度會社ノ船ナリヤト
問シム英人答テ兩國相交通スレバ未タ書翰ヲ
贈答シ交易ヲ行フニ至ラストイヘリ其後英國
ノ水師提督彼理氏日本國ニ到ラントスル以前
一千八百四十九年^{嘉永}五月英國ノ船將「マ」
ソシ氏英國女王陛下ノ蒸氣船ニ乘リ「ウ」ガ

ニ到リタレヒ何度ヲモ為スアタハス空シク
飯リシトナンウラガハ江戸ヨリ二十六里ト
云ヘリ

魯西亜船ノ日本港へ渡来シタル年代

魯西亜ニテ一千七百年ノ末ヨリ日本地ニ穂脚
所ヲ得シト謀リケル亜細亜洲ニ在ル魯領又從
來日本ニ屬スルクル島中ヲ奪テ具所有トシ
タル魯地及ヒ魯國ヨリ植民シタル亞國ノ一部
トカハ日本ノ南部ヲ除クノ外ハ日本國ノ東北
西部ニ連ルヲ以テ魯國ノ亞細亞洲ニ在ル領地ト

亞國ニ在ル領地トノ形勢ヲ視察シ時宜ヲ謀ラ
十分ニ交易セント欲シ先ツ漸ヲ以テ奸計ヲ運
テシケル是故ニ魯國ノ版國ハ東半球ノミナラ
ス高麗日本亞國ノ北西海岸アラスカノ海角ニ
突出ススクレウチア^ン諸島及ヒ^シトカノ嶮岬
ニ及フ^トヲ世界中ニ示シ如之東亞細亞西亞米
利加ノ海濱ニ於テ大利アルヘキ良港ヲ聞キ交
易ヲ盛ニシテ大益ヲ得且太平洋中ノ君主ト為
ラント欲スルナリ若シ魯國ニテ日本ヲ其管下
ニ屬スル時ハ多ク世界無双ノ良港ヲ領シ其金

錢ヲ以テ太平海ノ交易ヲ領スルニ至ルヘシサ
レハ魯國ニテ日本ヲ其管下ニ屬スルハ交易ニ
從テスル邦國ノ為ニハ利ヲラサルナレト魯
國ニ於テハ久ク此權利ヲ得ント企望スルナレ
然ナリ魯人日本ヲ其所有トシ交易ヲ行フ時ハ
益、廣大ナルニ至ルヘシ
今ヲ距ルナレソ七八十年前ニ當テ日本國ノ一
船大風ニ逢ヒ魯領「アレウチア」島ニ飄着セシ
度アリ魯國ヨリ此船中ノ人民ヲ扶助シテ魯領
「オツコツカ」イルコツカノ港内ニ送リタレト直

ニ日本ニ返サスシテ魯國ニ十年ノ間拘留シク
ル蓋シ魯人ニ日本語日本人ニ魯語ヲ學ハシメ
シカ為ナルナレト然ラレト實ニ一種ノ小事トス
畢竟大風ニ逢ヒ困苦シタル日本人ヲ扶助セシ
トイフ恩惠ヲ示サンカ為ナリ元來魯國ニテハ
日本ニテ外國人ノ入港スルナレト許サレ事ヲ
知ラス十年扶助シテ之ヲ返スモ即時ニ返スモ
日本ニ於テハ少シモ其恩ノ厚薄ヲ辨スルナレ
シ魯國ニテハ此度情ヲ知ラサルヲ以テ無益ノ
恩惠ヲ施セシナリ

魯國ノ女帝「カタリネ」氏一日「シベリア」ノ奉行ヲ
召シ日本國ノ飄客ヲ具本國ニ送り返スヘキ旅
装ヲ為シ且ツ彼等具本國ニ皈リタレハ日本國
ト魯國トトニ裨益アル所置ヲ行フヘシト命セ
ヨ予ヨリモ使節ヲ出ダシ厚ク贈遺スヘシ然レ
ドモ此事ニハ嚴ニ英人和蘭人ヲ關係セシムル
事勿レト借夫ヨリ一千七百九十二年寛政五年秋魯
國ノ流的南杜「ラキスマン」氏ヲ使節ニ命シ「カタ
リネ」ト稱スル運送船ニ乗セ「ラッコスカ」ヨリ出帆
セシム「ラキスマン」氏夫ヨリ「ラッコスカ」ヲ獲シ蝦

夷ノ北海岸ニ在ル一港ニ達シ冬ヲ経テ翌夏蝦
夷ノ南岸ヲ廻リ箱館ニ着シ日本官吏ト應接シ
タルニ甚ク懇懇ナレト日本ノ國法ニ於テ日本
人タリト雖本地ニテハ受スト固辭シ且告ケテ
云ヘルハ日本人ニテモ外國ニ行キ皈リ来レハ
外國又ト同一ニテ長崎ノ外他所ニ上陸スレハ
捕縛セラレテ獄中ニ繋ル、ト数年ナリ然レト
魯國ニテハ日本ノ國法ヲ知ラス且破船シタル日
本人ヲ愛養セラレタルニ感シ敢テ國法ヲ行ハ
サル所アルハ彼ノ日本人ヲ魯國ニ誘ヒ皈リ再

七長崎ノ外日本地ニ来ルナカレトイ、シト
ソ
前條ノ如キ景況ナレハ「ラキシマン」氏ハ日本地
ニ上陸セスシテ出帆シ其後魯國女帝「カタリネ」
氏ノ世ニハ再ヒ日本ニ船ヲ出セシ「ナシ」
八百四年^{文化}「カタリネ」氏ノ嫡男「アレキサン」ド
ル帝ノ世ニ至ラ魯國ノ官船一艘ヲ儀装シ「タル
セ」スラル「シ」氏ヲ将官トシ「レ」サノ「フ」氏ヲ公使
トシテ長崎ニ赴シム然ルニ「レ」サノ「フ」氏日本官
吏ト應接シ國帝ノ代人ノ腰ヲ屈スルト屈セサ

ルトイフ礼節ノ度ニテ大爭論ヲ起シ使節ノ任
ヲ成就スル「フ」アタハス矣「フ」ヘシ此時日本ヨリ
銃砲彈丸類ヲ預ラント云ケレハ返スマシトラ
渡サスス「レ」サノ「フ」氏一書ヲ作テ出島在留ノ和
蘭人ニ送ル其文ニ曰ク我々魯國ト日本ト交通
ノ盟約ヲ為シトス恐クハ和蘭人之ヲ妨ル所ア
ラント愚モ亦甚タレ其時「ヅ」氏出島ノ長官
ニシテ其性甚タ伶俐ナル人物ナレハ「レ」サノ「フ」
氏カ書翰ヲ見テ其旨ヲ振ヒ其智ヲ廻ラシ答ヘ
テ後日足下等予カ妨害セサル「フ」ハ足下等ノ國

利益アルヲ生スルニ至ラ始テ解悟スヘシ
ト儲夫ヨリ魯船ヲ長崎港内ノ碇泊所ニ入ラレ
ノ衆議ヲ後江戸ヨリ聖命アル迄ハ魯國公使上
陸スヘシトテ古キ魚屋ヲ掃除シ且之ヲ清潔ニ
シテ其周圍ニ高キ竹矢耒ヲ構ヘ待カケタリ其
後長崎ノ縣廳ヨリ魯國公使ヲ召サレ日本國帝
ヨリノ返簡ヲ渡サレシトアリシ時公使通行ノ
路傍ニハ兩側ニ悉ク幕ヲ張り且出エ人ニ命シテ
通路ノ左右ノ場所ヲ見セシムルヲナカレト布
告アリ「レサノフ」氏ノ日本紀行ヲ一見スレハ日

本ニテ魯國公使ヲ悔リ大ニ人間ノ礼法ニ背ク
トイヘルハ實ニ虐ナラサルヘシ魯國公使一千
八百四十九年文化長崎ニ到リ其翌五年ヲ空ク長
崎ニテ待テ漸ク日本帝國ヨリノ返書來ルトイヘ
リ其言ニ曰我カ日本帝國ニテモ往昔ハ世界諸
國ト交通レタレト其後屢々試ミシニ交通シテ
益アルト少クレハ寧ろ交通セサルニ優レリト定
ム是故ニ日本人國外ニ交通スルヲ禁シ又外
國人國內ニスルヲ禁スト又曰ク日本ト魯國
ト從來少シモ關係スル所ナシ過ル十年前魯地

ニ漂着シタル日本人ヲ松前ニ送致セラレシ
アリ此時交通貿易ノ願意ヲ以テ長崎ニ赴キタ
ルハ魯國ニテ日本ト交通スヘキ意ノ深キハ
顯然ナレトモ其後外又ト日本ノ交通ヲ絶シ以
既ニ數年ニ及ビヌレハ假令近隣ノ國ト雖其俗
ヲ異ニシ且其性モ同シカラサレハ全ク交通ヲ
禁シタリ是故ニ魯船ノ入港無益ニシテ又其商
品モ無用ニ屬シ斷然トシテ交通ヲ許サヌ是レ
日本國意ノ好ム所ナリトモ魯國意ノ好ム所ナ
古ノ如ク返眷アレハレサノフ氏絶然トシテ大

ニ怒リ悉ク日本在留中ノ雜費ヲ償ヒ直ニ此怒
ヲ報セシト詈リ「カムサツカ」ニ赴キ當時亞細亞
ト亞米利加ノ北西海岸トノ間ニ於テ交易スル
ニ艘ノ魯國商船ヲ指揮スル海軍將官「チヨウス
ト」^{「ダウイド」}兩氏ニ命シ日本ノ極北諸島即
チ日本ノ屬地ニ上陸シ掠奪セシメケリ「レサノ
フ」氏ハ夫ヨリ「スト、ペー」トルビエルクニ向テ登足
シケルカ途中ニテ死シタリトイヘリ
右ノ魯國ノ將官兩氏直ニ進テ日本ノ屬地「クリ
ル」諸島ノ南部ニ到リ其一島ヲ襲ヒケリ此「クリ

此諸島ハ本悉ク日本ノ属地ナリシカ魯國ヨリ
其北嶋ヲ取ラ已レカ所有ト為レト謀レリ此時
和蘭人等魯國ニテ日本ノ北嶋ヲ奪領セシトノ
江戸ニ通セシヤ否ヤヲ知ラサリシトソ又此島
ノ領主某公松前侯及ヒ監察官等魯國ニ北嶋
ヲ奪ハレタルハ日本ニ於テ面目ヲ失フコトナレ
此些少ノ偏地ニテ貢獻モ少ナキ地ナレハ國帝
ニ訴ヘテ自ラ罪科ヲ求メシヨリ寧隱スニ如シ
トテ建白セサリシトイヘル説アレト是々信シ
難シ若シ果シテ然ラハ監察官ヨリ必ス失事ヲ

政府ニ建白スヘシ建白セサル所ヲ以テ察スレ
ハ信スヘカヲナル説トス此島ハ實ニ日本領地
ト称スル名ノミノ地ニテ更ニ利益トナラサル
土地ナレト魯國ニテ垂涎スル所以ハ其地位魯
國ノ管下ニ接スルカ故ナリ又此時魯國ノ將軍
西氏クリル島ノ南部ニ上陸シ無事ノ土人ニ怒
ヲ移シテ村落ヲ強奪シ人民ヲ殺害シ加之居人
ヲ強シ魯船ニ拘引シ掠メ去リシト云ヘリ是レ
一千八百七十七年文化年ノコトナリ
日本受府ニ於テ魯人其北部ヲ奪掠シタル足跡

ヲ聞キ且驚キ且怒リ和蘭人ニ托レテ此事魯帝
ノ意中ヨリ出ルヤ否ヤヲ搜索セシム其後一千
八百十一年八月^化第五月魯國海軍如比丹「ゴロ
ニシ」氏「ジ」ア「ナ」ト称スル小軍艦ニ乘リ陽ニハ「ク
リル」諸島ノ地理ヲ検査スルト唱ヘ其美ハ尚日
本ト交易ノ條約ヲ結ハント企ケル是故ニ「ゴロ
」ニシ「氏」エ「ト」ロ「ブ」島ニ到リシ片唯「ク」リ「ル」諸島
ヲ檢出セシ「ト」ヲ主トシテ上陸セシカ日本ノ士
官ト兵士トニ逢ケレハ士官等「ゴロ」ニシ「氏」ニ
向テ足下等先年「チ」ヨ「ウ」ス「ト」フ「ダ」ウ「イ」ド「ア」西「氏」カ我

領内ヲ亂暴セシ如クセントラ来リシヤト問ク
ル故「ゴロ」ニシ「氏」答テ速ニ地理ヲ検査シ故ラ
ルト云ントソ夫ヨリ「ゴロ」ニシ「氏」ハ「ク」ナシ
ルト云フ一島ニ行シカ其船ヲ燒害セラル然ル
ニ同氏ハ尚疎意ヲ挟マス懇切ナリシニ遊ニ日
本人ノ奸計ニ欺カレ僅令官一人引水官一人「ク
リル」訳官一人魯國水夫四又上陸シテ悉ク俘虜
ト為リ「ゴロ」ニシ「カ」遭厄紀支ニ載ル如ク諸般
ノ危難ヲ受タリ此時日本ニテ斯ク久ク魯人ヲ
抑留セシハ嚮ニ「レ」サ「フ」氏カ日本北地ノ島嶼

ヲ掠畧シタル乱暴ニ報ユル所ニシテ此支魯帝
ノ意中ヨリ出サルノ分明ナル迄ハ拘留スル
ノ心ナルヘシ夫ヨリ「ゴロ」ニシ氏日本ヲ獲足
ノ時ニ到リ日本ト魯國ト再ヒ交渉ノ更ヲ謀ル
ト虽決シテ許容ナキ旨ヲ記シ英ヘシトソ然ル
ニ「ゴロ」ニシ氏ハ日本ニ御留中諸般ノ苦難ヲ
受タレト大量ニシテ仁急マル人物ナレハ敢テ
日本入ニ向テ害ヲ為シ怒ヲ報ユルノ趣急ナク
其後ハ下ニホス如ク魯國ヨリ日本ニ向テ何更
ラモ謀ラス方今ノ形勢ニ移リシナリ

亞米利加合衆國ノ日本ニ渡海セシ艦艦
我々亞國ニテ日本ト交通セシト企テシハ誠ニ
軌迹ノ更ニテ且年月ヲ経ス速ニ整ヒタリ一千
八百三十一年ニ天保日本船一艘其海岸ヨリ漂流
シ木平海中ヲ経テ遂ニ亞國ノ西岸「コロムビア」
トイヘル河口ニ漂着レケレハ亞國ニテ此日本
又ヲ愛撫シテ遂ニ「マカラ」ニ送リシニ「マカラ」ニ
テ亦亞人ト英人トノ保護ヲ受ケ遂ニ其本國日
本ニ送り返サシトイフ「一」ニ一決セリ猶此日本
人ヲ愛護スル亞人英人等日本ニテハ其同又ニ

ラモ飯国セシメサル国忒ナルヲ知ラス又預
メ英國法ヲ知ルト虫漂泊シタル日本人ヲ英國
ニ送致スルヲナレハ入港セシメサルヲハアラ
シト推量シヌ是ニ於テモリソシト称スル一般
ヲ撰ヒ「キング」氏其旅費ヲセシ太平洋海ニ向ヒ日
本ニ赴ク旅装ヲ調ヘタレ共態ト銃砲彈藥類ノ
武器ヲハ除ミタリ斯ラ旅装モ全ク盡ヒケレハ
一千八百三十七年天保八年「キング」氏自ラ其船ニ乘
リ出帆セリ紀行アリ既ニシテ「キング」氏カ船江
戸ニ着セシ時日本ノ士民船中ニ少シモ銃砲類

ノ武器ナキヲ見テ大ニ輕蔑シ砲墩ヨリ發丸ヲ
放ケケルヲ以テ「キング」氏カ船ハ直ニ其錨ヲ揚
テ九州ノ首府薩摩ノ鹿児島ニ到リ碇泊セシニ
鹿児島ニラモ亦暫時ニシテ銃砲取發ノ用意ヲ
為セシ故出帆セント催レタレト忽チ砲墩ヨリ
放ケ掛タリ斯リケレハ「キング」氏カ船モ止ムヲ
ヲ得ス日本ノ漂流人ヲ載ナカラ復「マカラ」ニ飯
リシナリ
一千八百四十六年弘化三年亞国ヨリ兩船ヲ出シ日
本帝國ト通信條約ヲ結ハント謀リケル英一艘

ハ「コロムビユスト」稱スル船ニテ大砲九十門ヲ備
フ又一艘ハ「ウインセント」稱スル快船ナリ水
師提督「ゴッドル」氏此兩船ヲ領シテ亞國ヲ出帆セ
シカ本年第七月江戸ノ港内ニ着レケレハ日本
國ノ常例ヲ以テ直ニ無数ノ小船ヲ出シ亞船ノ
周圍ニ羅列セリ此時船數ヲ數ヘ見シニ大約其
數四百艘ニ下ラス此船ノ内ヨリ一艘ウインセン
トス船ニ乘来リ二本ノ棒ノ如キ物ヲ携ヘ我カ
船ノ舳艫ニ立タリ其棒ニ記号ニ似タル物ヲ刻
ミ付タレヒ亞人ニハ少シモ解シ難シ推察スル

ニ亞船ヲ具西有ト為シタル事ヲ徵スルノ意ナ
ルヘケレハ速ニ取忖リ兵ヨト命シタレハ日本
人何ノ故障モナク取り奔リ夕リ借我カニ艘ノ
亞船汝戸港ニ十日碇泊シタレヒ一人モ上陸セ
シ者ナク又一隻モ調セシナシ季末ニ至テ我
カ願意ノ返答トシテ日本國帝ヨリ出サレタル
文意是ク短簡ナル者ナリ其文意ニ曰ク、交易ハ
和蘭國ノ外決シテ許ス事アタハスト
一千八百四十九年嘉永二年第七月二月亞船一艘十六人
乘ニテ日本海岸ニ到リ破船シテ恰モ俘虜ノ如

ク禁錮セラル、¹「バタトーニア」ヨリ告ケ来リ
タルヲ以テ合衆国ニテ「グリーン」氏ヲ將官トシ
「アレグルト」稱スル船ヲ出シ支那海ノ亞国船隊
トシ日本ニ送テ破船亞人ノ禁錮免許ヲ願ハシ
山此時我カ「アレブル」船日本海岸ニ近ツキケレ
ハ外国船入港ノ報告ト察セラレ日本ノ臺地ヨ
リ号砲ヲ放ナタリ夫ヨリ亞船尚進テ長崎港内
ニ入シ時日本船頗ニ乘リ来テ深ク入港スルヲ
遮リ止メント制シタレ凡入港ノ順風ヲ急ニ
止メ難ク日本船ノ際ヲ乘リ越シ内海ノ安然ナ

ル所ニ到リ碇泊セリ
亞船ノ入港ヨリ暫時ヲ経テ兵士ノ乗タル日本
船陸續トシテ入来リ出港ノ日々テ夜間絶ナ
シ此入来タル兵士ハ亞船ノ碇泊シタル海岸ノ
高キ地ニ屯集セリ此高地ノ各所ニ重砲隊砲墩
ヲ設テ大砲六十門ヲ備フ此大砲皆我カ「アレブ
ル」船ヲ照準スル者ノ如シ
¹「グリール」氏夫ヨリ殆ト十七月日本ニ禁錮セラ
レ苛刑ノ所置ヲ受タル可憐ノ亞人免許ノ談判
ニ及ヒタル真初十六名ノ亞人日本ニテ禁錮セ

ラレシ時義利西斯氏ノ礫臺ニ登タル肖像ヲ出
シラ之ヲ踏シノ告テ曰ク此肖像ハ日本ノ邪神
ナリ之ヲ踏サル者ハ直ニ殺戮スヘシトイヒシ
トソ「グリ」ン氏ヨリ始テ五人交付ノ「フ」ヲ談セ
シキニハ日本官吏傲然トシテ交付セントイヒ
シカ斯ラハ此事成就スマントマ思ヒケン文際
公訟ノ所置ヲ辞シケルヲ以テ「グリ」ン氏は夕
解ニ難キ諸ヲ用ヒ一夫ヲ送テ破船ノ五人等ニ
直ニ汝等ヲ受取ヘシ我カ政府ニ於テ汝等ヲ保
護クルノ權アレハ其權恣ヲ以テ所置スヘシト

申送りタリ斯ク處置セシヨリ忽チ日本人ノ形
容大ニ變シ忿怒セシ様子ニテ一日ノ内ニ悉ク
五人ヲ交付セント約シ一帛ニ記シ送りケル夫
ヨリ「ブレブル」船ハ五人等ヲ乗セ出帆シテ支那
海ニ碇泊スル亞国船隊ト合併セリ此後合衆国
政府ニ於テ所置セシ事件ハ後篇ニ至リ陳述ス
ヘシ
既ニ前ノ數條ニ於テ世界ノ開ケタル邦国ヨリ
日本ト交易セシカ為ニ屢々渡海シタル概畧ヲ
述フ今又爰ニ其渡海シタル年代ノ前後表ヲ奉

ク以テ一覽ニ便ナラシム

Faint vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

年 數	葡 萄 牙	和 蘭	英 吉 利	魯 西 亞	合 衆 國
一千五百四十二年 ヨリ四十五年	始々日本ニ上陸ス				
一千五百五十八年 天文十九年	日本ニ基利西 母ヲ傳フ				
一千五百九十七年 慶長二年	日本ニ基利西母 ヲ祭シ其徒ヲ罰ス				
一千六百年 慶長五年		和蘭人始々日本 ニ到レ			
一千六百九年 慶長十四年		和蘭人始々日本ヨリ 交易ノ免許ヲ受ク			
一千六百十三年 慶長十八年			英國ノカリシ氏平定到 着シ日本ヨリ交易ノ免 許ヲ受テ平戸ノ商館ニ立 去レ		
一千六百三十三年 元和九年			英ヨリ再々交易 ヲ請フ許サス		
一千六百三十六年 寛永十三年					
一千六百三十九年 寛永十六年	葡萄牙人日本ヨリ 放逐セラレ	和蘭人日本國ノ獲利 及母竟征伐ニ換共フ 出ス			
一千六百四十八年 寛永十八年		和蘭人平戸ヨリ 長崎高ニ移ル			
一千六百七十二年 延宝元年					
一千七百九年 寛政三年			英人又日本ニ到リ 交易ヲ請フ不免 英人アレニトシ文 易ヲ請フ不免		
一千七百九十二年 天明二年					魯國ノマキニシ氏

寛政四年									
一千八百三年									
享和三年									
一千八百四年									
文化元年									
一千八百七年									
文化四年									
一千八百八年									
文化五年									
一千八百十一年									
文化八年									
一千八百十三年									
文化十年									
一千八百十四年									
文化十二年									
一千八百十八年									
文政元年									
一千八百三十七年									
天保八年									
一千八百四十六年									
加化三年									
一千八百四十九年									
嘉永二年									
一千八百五十二年									
嘉永五年									
一千八百五十五年									
嘉永八年									

日本ニ到ル

魯国ノ「レ」氏
日本ニ到ル

魯人「レ」氏
諸島ヲ探ル

魯国ノ「レ」氏
日本ノ「レ」氏
諸島ヲ探ル

英人「レ」氏
日本ニ到ル

英人「レ」氏
日本ニ到ル

英人「レ」氏
日本ニ到ル

英人「レ」氏
日本ニ到ル

英人「レ」氏
日本ニ到ル

英人「レ」氏
日本ニ到ル

和蘭人「レ」氏
日本ニ到ル

和蘭人「レ」氏
日本ニ到ル

和蘭人「レ」氏
日本ニ到ル

和蘭人「レ」氏
日本ニ到ル

和蘭人「レ」氏
日本ニ到ル

和蘭人「レ」氏
日本ニ到ル

和蘭人「レ」氏
日本ニ到ル

和蘭人「レ」氏
日本ニ到ル

和蘭人「レ」氏
日本ニ到ル

和蘭人「レ」氏
日本ニ到ル

和蘭人「レ」氏
日本ニ到ル

